

特219

303

恩
給
の
葉

編會育教縣手岩



0007168000

0007168-000

特219-303

恩給の葉

岩手県教育会・編

岩手県教育会

昭和9

ABH

特219
303

岩手縣教育會編



給

の

葉

岩手縣教育會發行



青年神道會館



恩給の項目次

恩給法

第一章 總則 一

第二條 (恩給ノ種類) 二

第六條 (請求消滅時効) 三

第九條 (年金恩給權ノ一般失權原因) 四

第九條ノ二 (受給權ノ調査) 五

第十三條 (行政救済及範圍) 六

第十六條 (恩給負擔) 七

第十七條 (分擔請求) 八

第十八條 (團體納金及交付金) 九

第二章 公務員 一〇

第一節 通 則

- 第二十二條……(教育職員、準教育職員ノ意義)
- 第二十四條……(待遇職員ノ意義)
- 第二十六條……(退職ノ意義)
- 第二十八條……(在職年計算原則)
- 第三十條……(軍人、警察監獄職員在職年計算法則)
- 第三十一條……(削 除)
- 第三十九條……(航海加算及艦隊加算)
- 第四十條ノ二……(現實ニ職務ヲ執ルヲ要セザル在職年ノ計算)
- 第四十一條……(除算年)
- 第四十二條……(通算年)
- 第四十三條……(準公務員ノ在職年)
- 第四十六條……(增加恩給ノ要件)

- 第四十六條ノ二……(傷病年金ノ要件及併給)
- 第四十七條……(準公務員ノ增加恩給及傷病年金)
- 第四十九條……(公務傷病ノ原因、程度及準公務員ノ階等)
- 第五十條……(有期裁定)
- 第五十一條……(失 格)
- 第五十五條ノ二……(傷病年金改定)
- 第五十六條——第五十七條……(再任改定特例)
- 第五十八條……(恩給停止)
- 第五十九條……(個人納金)
- 第二節 恩 給 金 額
- 第五十九條ノ二……(基礎俸給)
- 第六十條……(文官及準文官ノ普通恩給)
- 第六十一條——第六十一條ノ二……(軍人及準軍人ノ普通恩給)

第六十二條……(教育職員及準教育職員ノ普通恩給)

第六十三條……(警察監獄職員ノ普通恩給)

第六十四條……(待遇職員ノ普通恩給)

第六十四條ノ二……(一時恩給受給者ノ再任)

第六十五條ノ二……(傷病年金)

第六十六條……(傷病賜金)

第六十七條……(文官、教育職員及待遇職員ノ一時恩給)

第六十八條……(軍人ノ一時恩給)

第七十條……(警察監獄職員ノ一時恩給)

第三章 遺族……………二八

第七十五條……(扶助料年額)

第七十七條……(扶助料停止)

第八十條……(扶助料權消滅)

附 則……………三二

第九十一條……(植民地加算年)
第九十九條……(削 除)

別 表

第一號表……(軍人假定俸給年額)

第三號表……(傷病年金)

第四號表……(傷病賜金)

改正法律附則(昭和八年法律第五十號)……………四一

第一條……(施行期日)

第二條……(適用例)

第三條……(公務傷病程度出訴權ノ存續)

第四條……(團體納金ノ經過規定)

- 第五條……(從前ノ在職年計算)
- 第六條……(休職等ノ在職年計算ノ特例)
- 第七條……(傷病年金ノ原因事實)
- 第八條……(若年者恩給停止ノ始期)
- 第九條……(個人納金増額ノ始期)
- 第十條……(基礎俸給年額ノ特例)
- 第十一條……(年限延長ノ特例(一))
- 第十二條……(年限延長ノ特例(二))
- 第十三條……(從前ノ一時恩給受納者ノ再任)
- 第十四條……(特殊扶助料ノ特例)
- 第十五條……(巡查警部在職年ノ通算)
- 第十六條……(加算年整備)
- 第十七條——第十八條——第十九條……(第九十九條廢止後ノ處理)

參 考

市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法(明治二十三年法律第九十號)……………一一六

一、恩 給 法

(大正一二年四月法律第四八號改正)
(昭和八年四月法律第五〇號)

第一章 總 則

- 第一條 公務員及之ニ準スヘキ者並其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス
- 第二條 本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、傷病年金、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ
- 第三條 普通恩給、增加恩給、傷病年金及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス
- 第三條 年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル
- 第四條 恩給年額並一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム
- 第五條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
- 第六條 普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス
- 前項ノ規定ハ普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二

恩給法

條第一項第一號ニ規定スル官内職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス
第七條 時効期間満了前二十日以内ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサル
トキハ其ノ妨碍ノ止ミタル日ヨリ二十日以内ハ時効完成セス

時効期間満了前六月内ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治産者法定代理人
ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコト得ルニ至リタル日ヨリ六月内ハ時効
完成セス

時効期間満了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時効期間内ニ權限アル
官公署ニ到達セサルモ之ヲ時効期間内ニ到達シタルモノト看做ス

第八條 公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由
トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給
スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公務員又ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ
本法ニ依ル恩給ト官内官ノ恩給規程ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於テ官内官ノ恩給規程ニ依
ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第九條 年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス
一 死亡シタルトキ

二 死刑又ハ無期若ハ二年ヲ超ユル懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ
三 國籍ヲ失ヒタルトキ

在職中ノ職務ニ關スル犯罪(過失犯ヲ除ク)ニ因リ禁錮以上ノ刑(陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依ル一
年未滿ノ禁錮ノ刑ヲ含マス)ニ處セラレタルトキハ其ノ權利消滅ス但シ其ノ在職カ普通恩給ヲ受ケ
タル後ニ爲サレタルモノナルトキハ其ノ再在職ニ因リテ生シタル權利ノミ消滅ス

第九條ノ二 裁定官廳ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ニ付其ノ權利
ノ存否ヲ調査スヘシ

第十條 恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ勅令ノ定ムル所
ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

第十一條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス
恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合ハ此ノ
限ニ在ラス

第十二條 恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外内閣恩給局長之ヲ裁定ス
第十三條 行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年内ニ内閣恩
給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ内閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁決所ニ
恩給法

出訴スルコトヲ得但シ公務傷病ノ程度ニ付テハ出訴ヲ爲スコトヲ得ス
第一項ノ具申ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 內閣總理大臣及內閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ羈束ス

第十五條 內閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審査會ニ諮問スヘシ

恩給審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 恩給ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 文官及準文官並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル者ノ一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給ヲ給シタル者之ヲ負擔ス
- 二 軍人及準軍人並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス
- 三 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟之ヲ負擔ス
- 四 前號ニ規定スル者以外ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除クノ外一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス
- 五 警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス
- 六 待遇職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス但シ官國幣社ノ

神職及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

第十七條 前條第一號、第二號若ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若

ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年中ニ第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ハ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ニ恩給ヲ給スル者又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニ俸給ヲ給スル者ニ對シ請求スルコトヲ得

前條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ國庫以外ノ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ第一號、第二號若ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年ヲ通算シテ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄内ニ於テ在職シタル第三號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給ノ分擔及同條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給相互ノ分擔ニ付之ヲ準用ス

第十八條 國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ府縣費ヨリ俸給ヲ給スル文官、神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員タル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ其ノ經濟ニ納付スヘシ
前項ノ經濟ニ對シテハ國庫ハ前項ニ規定スル納金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

第二章 公務員

第一節 通則

第十九條 本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員並第二十四條ニ掲クル待遇職員ヲ謂フ

本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者トハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ

第二十條 文官トハ武官又ハ宮内官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニシテ前項但書ノ規定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

第二十一條 軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 陸軍又ハ海軍ノ現役、豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在ル者
- 二 國民兵役ニ在ル者ニシテ召集セラレタルモノ及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者

準軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生
- 二 勅令ヲ以テ指定スル陸軍又ハ海軍ノ學生生徒

第二十二條 教育職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
一 公立ノ學校、幼稚園若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

二 道府縣立師範學校長

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指

定シタルモノヲ謂フ

準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校又ハ幼稚園ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二十三條 警察監獄職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 警部補、巡查、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛及衆議院守衛
- 二 看守、女監取締、陸軍監獄看守及海軍監獄看守
- 三 判任官ノ待遇ヲ受クル消防手

第二十四條 待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 判任官以上ノ待遇ヲ受クル神宮司廳職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職
- 二 判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄ノ職員（前條第二號ニ掲クル者ヲ除ク）、感化院職員及矯正院職員

三 地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

四 前三號ニ掲クル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第二十五條 本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

- 一 文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職
- 二 現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト

願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト

三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命

四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡查若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡查若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス

五 待遇職員ニ在リテハ任命

第二十六條 本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

- 一 文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職
- 二 現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職但シ下士官准士官以上ノ軍人ト爲リタルトキハ普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ノ計算ニ關シテハ之ヲ退職ト看做ス
- 三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職

四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス

五 待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條 第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

準軍人ノ就職トハ職務、戒嚴地域内ノ勤務又ハ外國ノ鎮戍ニ服スルコトヲ謂ヒ退職トハ其ノ勤務ヲ終ルコトヲ謂フ

第二十八條 公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給又ハ第八十二條ニ規定スル一時扶助料ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年其ノ他ノ前在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條 公務員二以上ノ就職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十條 軍人又ハ警察監獄職員ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ准士官以上ノ軍人ニ付テハ十三年ニ達スル迄、下士官以下ノ軍人及警察監獄職員ニ付テハ十二年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ十分ノ七ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十一條 削除

第三十二條 公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一 戦地ニ在リテハ職務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二 戦地外ニ在リテハ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戦争ニ準スヘキ事變ニ際シ職務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス戦争ノ期間及地域、職務ノ範圍竝戦争ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 公務員外國ノ交戦又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危険ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戦又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 公務員戒嚴地域内ニ於テ危険ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條 公務員外國鎮戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

第三十六條 航空機乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

第三十七條 潜水艇乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潜水艇ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十八條 公務員其ノ職務ヲ以テ邊陲又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上服務シタルトキ亦同シ
前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三分ノ一月ヲ加算ス一年以上引續キ編隊艦船ニ乗シテ上陸制限ノ下ニ準戰訓練ニ服シタルトキ亦同シ

前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス
加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

終ル

二種以上ノ加算年ヲ給セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十條ノ二 休職、待命、歸休、停職其ノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要セサル在職期間ニシテ一月以上ニ亘ルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減ス

第四十一條 左ニ掲クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一 普通恩給又ハ増加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二 第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三 在職中二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數

四 公務員退職後在職中ノ職務ニ關スル犯罪(過失犯ヲ除ク)ニ付陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ犯罪ノ時ヲ含ム引續キタル在職年月數

五 公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

六 宮内職員トシテノ在職年月數ニシテ宮内官ノ恩給規程ニ依リ除算セララルヘキモノ

第四十二條 左ニ掲クル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス
一 宮内官ノ恩給規程ニ依リ宮内官恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ宮内職員トシテノ在職年月數
二 準軍人ノ在職年月數

三 高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ接續スル其ノ勤

續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數
 四 準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

第二十八條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ準軍人又ハ皇宮警手トシテノ在職年ハ夫々之ヲ軍人又ハ警察監獄職員トシテノ在職年ト看做ス

第四十三條 第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ在職年ノ計算ニ付之ヲ準用ス
 第四十條ノ二及第四十一條ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月ニ付之ヲ準用ス

第四十四條 本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準スヘキモノヲ謂フ
 本俸ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第四十五條 公務員所定ノ年數在職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス
 第四十六條 公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癡疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル増加恩給ヲ不具癡疾ノ程度ニ相應スル増加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖裁定官應ニ於テ恩給審査會ノ議ニ付スルヲ相當ト認メ且恩給審査會ニ於テ不具癡疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ議決シタル月ノ翌月ヨリ之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ之ヲ改定ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十六條ノ二 公務員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ノ程度ニ至ラサルモ勅令ノ定ムル程度ニ達シ失格原因ナクシテ之カ爲其ノ職ニ堪ヘスシテ一年内ニ退職シタルトキ又ハ其ノ公務員カ下士官以下ノ軍人ニシテ退職後一年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病年金ヲ給ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ニ規定スル條件(傷病ノ程度ヲ除ク)ヲ具備スル者ニシテ退職當時ノ傷病ノ程度カ前項ノ勅令ニ定ムル程度ニ達セザリシモノノ傷病年金ニ付之ヲ準用ス
 前條第四項ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ給スヘキ傷病年金ニ付之ヲ準用ス
 傷病年金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

第四十七條 前二條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

一 勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ

二 戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ

三 公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰鬪ニ準スヘキ公務ノ範圍、公務傷病ニ因ル不具瘡疾ノ程度及傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度並數育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具瘡疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコト

アルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷疾疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

前二項ノ規定ハ傷病年金ノ裁定ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

第五十一條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一 懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ

二 在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第二號但書及第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五十二條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル官内職員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第五十四條 普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

- 一 再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ
- 二 再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ト爲リ退職シタルトキ
- 三 再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癡疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ増加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具癡疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

- 一 前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム
- 二 後ノ傷痍又ハ疾病カ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ起因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癡疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額ヨリ前ノ増加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具癡疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ増加

恩給ノ年額トス但シ後ノ傷痍又ハ疾病ノミニ因ル増加恩給年額カ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル増加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

二 後ノ傷痍又ハ疾病カ普通公務ニ起因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癡疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額ト前ノ増加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具癡疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ増加恩給ノ年額トス

第五十五條ノ二 前二條中増加恩給ノ改定ニ關スル規定ハ傷病年金ヲ受クル者再就職シ再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ増加恩給又ハ傷病年金ヲ受クヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第五十六條 前三條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十七條 前四條ノ規定ハ官内官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

- 一 公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル官内職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 二 二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ翌月ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス
 - 三 之ヲ受クル者三十五歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歳以上四十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ増加恩給又ハ傷病年金ト併給セララルル場合ニハ之ヲ停止セス
 - 四 恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ年額五千圓ヲ超ユルトキハ恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ノ六千圓ヲ超ユル額ノ二割ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ
- 前項第四號ノ所得ノ範圍及計算方法並停止方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第一項第二號ノ規定ハ増加恩給及傷病年金ニ付之ヲ準用ス
- 第五十九條 文官ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ
 下士官以上ノ軍人ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ
 教育職員ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學

校ノ教育職員ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟ニ對シ其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

警察監獄職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ毎月其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ毎月其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二節 恩給金額

- 第五十九條ノ二 本節ニ於テ退職前ノ俸給年額ト稱スルハ退職前一年內ノ俸給(軍人及準軍人ニ在リテハ各階等ニ付定メラレタル別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ其ノ階等ニ對スル俸給額トス)ノ總額ヲ謂フ但シ左ノ特例ニ從フ
- 一 公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲退職シ又ハ死亡シタル者ニ付退職又ハ死亡ノ際昇給アリタルトキハ其ノ爲サレタル昇給ノ中級俸ノ定アルモノ(軍人及準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ級俸トス)ニ付テハ一級、其ノ定ナキモノニ付テハ昇給前ノ俸給ノ百分ノ十五ヲ限度トシ退職一年前ヨリ昇給セラレタルモノトシテ計算ス
 - 二 前號ニ規定スル場合以外ノ場合ニ於テ退職前一年內ニ昇給アリタルトキハ其ノ昇給カ前俸給ニ

一年以上据置ノ後爲サレタルモノナルトキニ限り前號ノ規定ヲ準用ス

轉官職ニ依ル俸給ノ増額ハ之ヲ昇給ト看做シ前項但書ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル退職前一年内ノ俸給ノ算出方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

實在職期間一年未滿ナルトキハ其ノ俸給額ヲ月數ノ割合ニ依リ一年分ニ換算ス

本節ニ於テ退職前ノ俸給月額ト稱スルハ退職前ノ俸給年額ノ十二分ノ一ニ相當スル金額ヲ謂フ

第六十條 文官在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二

相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相

當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年

中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給

ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテ在職年七年以上ナルヲ以テ

足ル

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號、第五十五條ノ二又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十

七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス
第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二
相當スル金額トス

第六十一條 准士官以上ノ軍人在職年十三年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第一號ノ準軍人在職年十三年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラ

レタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年以上十四年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十

ニ相當スル金額トシ十四年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ

相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前條第三項ノ規定ハ准士官以上ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

在職年五十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年五十年トシテ計算ス

陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ二年以上實在職シ最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス

第四十六條、第四十七條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在

職年十三年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

準軍人ノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條ノ二 下士官以下ノ軍人在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第二號ノ準軍人在職年十二年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十三年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ下士官ニ在リテハ七圓、兵ニ在リテハ六圓ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項並前條第五項、第七項及第八項ノ規定ハ下士官以下ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

第六十二條 教育職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス
前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校又ハ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤績在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤績在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤績在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第二項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテノ勤績在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤績在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤績在職年一年ニ

付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トス

第六十三條 警察監獄職員在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十二年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤績在職年十二年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤績在職年中十二年ヲ控除シタル殘ノ勤績在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十二年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條 待遇職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項及第四項並第六十二條第六項ノ規定ハ待遇職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條ノ二 一時恩給ヲ受ケタル後其ノ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年數一年ヲ二月ニ換算シ

タル月數内ニ召集其ノ他ノ強制ニ依ラスシテ再就職シタル者ニ普通恩給ヲ給スル場合ニ於テハ當該

換算月數ト退職ノ翌月ヨリ再就職ノ月迄ノ月數トノ差月數ヲ一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給

月額ノ二分ノ一ニ乘シタル金額ノ十五分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ普通恩給

ノ年額トス但シ差月數一月ニ付一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ノ割合ヲ以テ

計算シタル金額ヲ勅令ノ定ムル時期ニ於テ返還シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條 公務員ノ増加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具廢疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ増加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十五條ノ二 公務員ノ傷病年金ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及傷病ノ程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ傷病年金ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十六條 下士官以下ノ軍人公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ傷病年金ヲ給セラルルノ程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後一年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等並傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條 准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿ニシテ又ハ下士官在職三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但シ下士官以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ此

ノ限ニ在ラス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十九條 削除

恩給法

二七

第七十條 警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス
 前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス
 第七十一條 削除

第三章 遺族

第七十二條 本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姊妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ
 公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

- 一 在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ
 - 二 普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ
- 前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限り之ヲ適用ス

第七十四條 未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限り之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限り扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限り之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條 扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ全額
- 二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額
- 三 其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當

恩給法

三〇

スル金額

前項第一號又ハ第二號ニ規定スル場合及増加恩給ヲ併給セラルル者ノ死亡シタル場合ニハ其ノ死亡ノ月ノ翌月ヨリ五年間ハ前項ノ規定ニ依ル扶助料ノ年額ニ各其ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ加給ス第七十六條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

- 一 子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ
- 三 父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條 扶助料ヲ受クル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七十八條 扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ

所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條 前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條 遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

- 一 其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ
- 三 不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

届出ヲ爲ササルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ入りタリト認めラルル遺族ニ付テハ裁定官廳ハ恩給審査會ニ諮問ノ上其ノ者ノ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ハシムルコトヲ得

裁定官廳ハ前項ニ規定スル事情ヲ調査スル爲必要アルトキハ他ノ官廳又ハ公署ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姊妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姊妹未成年又ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養ス

恩給法

三一

ル者ナキ場合ニ限り之ニ一時扶助料ヲ給ス
前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條 文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿、准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿、下士官タル軍人又ハ警察監獄職員在職三年以上十二年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス
前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス
第五十九條ノ二第五項ノ規定ハ死亡前ノ俸給月額ニ付之ヲ準用ス
第七十三條中遺族ノ順位ニ關スル規定及第七十四條ノ規定ハ第一項ノ扶助料ヲ給スル場合ニ付之ヲ準用ス

附 則

第八十三條 本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條 左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

一 官吏恩給法

一 官吏遺族扶助法

一 軍人恩給法

一 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法

一 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法

一 明治二十四年法律第四號

一 明治二十九年法律第十三號

一 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則

一 明治二十九年法律第七十八號

一 明治三十三年法律第七十五號

一 明治三十三年法律第七十六號

一 明治三十三年法律第七十七號

一 巡查看守隱退料及遺族扶助料法

一 明治三十五年法律第二十九號

一 在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法

一 明治四十年法律第四十八號

一 明治四十年法律第四十九號

一 恩給法

恩給法

- 一 明治四十一年法律第三十五號
- 一 明治四十三年法律第三十號
- 一 明治四十四年法律第六十一號
- 一 明治四十四年法律第六十七號
- 一 明治四十五年法律第十一號
- 一 明治四十五年法律第十二號
- 一 大正七年法律第三十號
- 一 大正十年法律第三十五號
- 一 大正十年法律第九十四號
- 一 大正十一年法律第十八號
- 一 大正十一年法律第十九號
- 一 明治二十二年勅令第三百三十三號
- 一 明治二十三年勅令第九十八號
- 一 明治二十五年勅令第十八號
- 一 明治二十五年勅令第三十二號
- 一 明治三十二年勅令第九十六號

- 一 明治三十八年勅令第二百二十九號
 - 一 明治四十年勅令第八十八號
 - 一 明治四十年勅令第八十九號
 - 一 明治四十一年勅令第七十一號
 - 一 明治四十五年勅令第七十號
 - 一 大正七年勅令第六十二號
 - 一 大正十年勅令第二百六十八號
 - 一 大正十一年勅令第八十七號
 - 一 大正十一年勅令第二百八十四號
 - 一 明治九年第九十九號達陸軍恩給令
 - 一 明治十五年第四十一號達巡查看守給助例
 - 一 明治十六年第三十八號達海軍恩給令
 - 一 明治十七年第一號達官吏恩給令
- 第八十五條 本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル
- 從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受

恩給法

クヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類並給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム從前ノ規定ニ依ル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本法ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル恩給中最近キ性質ヲ有スルモノニ依ル

第八十六條 第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退職料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第八十七條 第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退職料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第八十八條 從前ノ規定ニ依リ内閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具申、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依ル内閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依ル具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル具申ノ裁決ト看做ス

本法施行ノ際現ニ具申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス
第八十九條 府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依

リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得
前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス

府縣ニ於テ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

恩給基金ノ管理ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限り本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規程ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條 内地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州（關東廳及其ノ所屬官署職員ニ付テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ内在

勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス
前項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ一年、警察監獄職員ニ在リテハ三年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ四年トス

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十二條 公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危険地域内ニ勤務シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危険地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十三條 海軍警吏補ヨリ海軍巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋廳巡查ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條 朝鮮總督府巡查補ヨリ朝鮮總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡查補及朝鮮總督府巡查補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條 臺灣總督府巡查補ヨリ臺灣總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡查補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在

職シタルモノト看做ス

第九十六條 大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タル恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條 第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第九十八條 第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具廢疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條 削除

第一百條 本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

本法施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利

本法ニ依リ取得スルコトナシ
 第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ
 大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ増額ヲ受ケザリシ軍人ノ遺族本法施行後扶助料ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求ヲ竣タスシテ同法附則ノ規定ニ依リ増額セラレタルモノト看做ス

第一百條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ増給ス

第一百二條 明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛若ハ衆議院守衛又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ増額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員若ハ巡査又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ付之ヲ準用ス

利ヲ有スルモノニ付之ヲ準用ス

第一百三條 北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改正シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第一百四條 第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

(昭和八年法律第五十號)

第一條 本法ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十六條ノ二、第五十八條第一項第四號及第五十九條ノ改正規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本法施行前給與事由ノ生ジタル恩給ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ第五十八條第一項第四號ノ改正規定ハ本法施行前給與事由ノ生ジタル恩給ニ付テモ之ヲ適用ス

第三條 第十三條第二項但書ノ改正規定ハ本法施行前ヨリ行政裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ之ヲ適用セス

第四條 第十八條第一項ノ改正規定ニ依ル納付金額ハ同項ニ規定スル公務員ニ付テ附則第九條ノ規定

ノ必要ナキニ至ル迄ハ第十八條第一項ノ改正規定ニ拘ラス同項ニ規定スル公務員カ第五十九條（改正前又ハ改正後）及附則第九條ノ規定ニ依リ納付スル金額ノ合計額ト同額トス

第五條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ加算年又ハ休職等ノ減算ニ關スル改正規定ニ拘ラス仍從前ノ規定ニ依ル

第六條 第四十條ノ二ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ進行中ニ屬スル休職、待命、歸休、停職其ノ他同條ニ規定スル在職期間ニ付テハ其ノ期間ノ終了ニ至ル迄本法施行後ト雖モ同條ノ規定ヲ適用セス

第七條 傷病年金ハ本法施行後公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ニ之ヲ給ス但シ本法施行前賑恤金（之ニ準スルモノヲ含ム）又ハ傷病賜金ヲ受クヘキ事由ヲ生シタル者ニハ本法施行前其ノ事由ヲ生シタルトキト雖モ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第八條 第五十八條第一項第三號ノ改正規定ハ本法施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生シタル者及本法施行ノ際現ニ在職シ本法施行後退職シテ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生スル者ニハ之ヲ適用セス

前項ニ規定スル者本法施行後再就職シ其ノ普通恩給ヲ改定セラルル場合ニハ其ノ改定ニ因ル増額分ニ付第五十八條第一項第三號ノ改正規定ヲ適用ス

第九條 第五十九條ノ改正規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後就職シ又ハ俸給（又ハ給料）カ昇給若ハ増額セラレタル月ノ翌月ヨリ之ヲ適用ス

第十條 第五十九條ノ二第一項但書ノ場合ニ於テ其ノ公務員カ同一種類ノ公務員トシテ實在職年二十

年以上勤續シタル者ニシテ特殊ノ事情アルモノニ付テハ當分ノ内同但書各號ニ於ケル制限ノ一級ヲ二級、百分ノ十五ヲ百分ノ三十トス

第十一條 本法施行ノ際從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達シタル者ニハ其ノ者カ本法施行後改正規定ニ依ル最短恩給年限ニ達セスシテ退職シタル場合ト雖モ退職前ノ俸給ニ依リ之ニ普通恩給ヲ給ス但シ其ノ年額ハ在職年ノ不足一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

第十二條 前條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ休職、再服役其ノ他法令上ノ在職期限ノ定アル地位ニ在ル者ニシテ本法施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達スルモノニ付テ之ヲ適用ス

第十三條 第六十四條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前受ケタル一時恩給ニ付テハ之ヲ適用セス

第十四條 第七十五條第二項ノ改正規定ハ公務員カ本法施行前死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本法施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

第十五條 恩給法施行前同法第二十三條ニ掲クル公務員トシテ普通恩給（退職料）ヲ受ケ引續キ文官ニ任シ同法施行後迄在職シタル後本法施行前退職シ同法第八十五條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ其ノ普通恩給（退職料）ヲ文官ノ普通恩給ニ改定セラレサリシ者ニ付テハ同項ノ規定ニ拘ラス特ニ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法施行前ノ規定ニ依リ其ノ普通恩給（退職料）ヲ文

官ノ普通恩給ニ改定ス但シ恩給法施行後文官退職ニ因リ一時恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ改定ニ因リ増額セラルル普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス
 前項ノ規定ハ恩給法施行後本法施行前ニ文官トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ之ヲ適用セス
 第一項ニ規定スル者引續キ本法施行後迄在職スルトキハ恩給法第八十五條第一項ノ規定ニ拘ラス恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ同法第二十三條ニ掲タル公務員トシテノ普通恩給(退職料)ヲ文官トシテノ普通恩給ニ改定ス

第十六條 第九十一條第二項ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ在職シ従前ノ同項ニ規定スル期間ヲ經過シタル者ニ付テハ之ヲ適用セス

第十七條 本法施行ノ際現ニ在職シ恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケサル者ノ恩給ノ停止ニ付テハ其ノ者カ引續キ其ノ官職ニ在職スル期間ニ限り仍同法第九十九條第一項ノ規定ニ依ル

第十八條 本法施行前恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケサルシ者又ハ前條ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケサル者ノ當該在職期間ト他ノ公務員ノ在職年トノ通算ハ仍従前ノ例ニ依ル

第十九條 前條ニ規定スル者ヲ除クノ外恩給法第九十九條第一項ニ規定シタル者ノ大正十二年十月一日以後ノ在職年ハ同日以後ノ他ノ公務員ノ在職年ト互ニ通算ス但シ本法施行前ニ給與事由ノ生シタ

ル場合ニ於テハ其ノ者カ再就職シ本法施行後退職又ハ死亡シタル場合ニ限り此ノ規定ニ依ル
 前項ニ規定スル者ノ大正十二年九月三十日以前ノ在職年ノ同日以前ノ他ノ公務員ノ在職年トノ通算ニ付テハ同日以前ノ舊法ノ例ニ依ル
 第一項ニ規定スル者ノ大正十二年十月一日前後ノ在職年ノ通算ニ關シテハ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用ス
 (別表) 略

二、恩給法施行令

(大正一二年八月勅令第三六七號改正)
 (昭和八年九月勅令第二三六號)

第一條 恩給法第九條ノ二ノ規定ニ依ル恩給受給權存否ノ調査ハ受給者ノ身分關係ノ變動ノ有無ニ付之ヲ行フ
 遺族タル夫又ハ成年ノ子カ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ條件トシテ扶助料ヲ給セラルトキハ其ノ者ニ付テハ前項ニ規定スル事項ノ外特ニ右事情ノ繼續ノ有無ヲ調査ス
 第一條ノ二ニ受給者ハ左ノ區別ニ從ヒ調査上必要ナル書類ヲ裁定官廳ニ提出スヘシ

- 一 前條第一項ノ事實ヲ證スル爲ニハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者及妻ニ在リテハ戸籍抄本、妻以外ノ扶助料權者ニ在リテハ戸籍謄本
- 二 前條第二項ノ事實ヲ證スル爲ニハ不具癡疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ證スル居住地ノ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書
- 前項ノ書類ハ事實カ裁定官廳ニ顯著ナル場合又ハ他ノ相當官公署ノ證明アル場合ニ於テ裁定官廳カ明カニ之ヲ承認シタルトキハ其ノ承認ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 第一條ノ三ニ規定スル書類ヲ提出スヘキ月カ恩給ノ裁定ヲ受ケタル月(證書ノ日附ニ在ル月)ノ翌月ヨリ十二月内ニ在ルトキハ其ノ書類ヲ提出スルコトヲ要セス
- 第一條ノ三 各受給者ハ前條ノ書類ヲ左ノ區別ニ從ヒ隔年提出スヘシ

 - 一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテ恩給ヲ受クル者ハ一月
 - 二 遺族トシテ恩給ヲ受クル者ハ七月

- 陸軍ノ軍人、之ニ準スヘキ者及警察監獄職員並其ノ遺族ハ昭和ノ偶數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出シ他ノ公務員及之ニ準スヘキ者並其ノ遺族ハ其ノ奇數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出スヘシ
- 第一條ノ四 第一條ノ二ニ規定スル書類ヲ提出セサル受給者ニ對シテハ之ヲ提出スヘキ月ヨリ一期隔リタル後ノ支給期以後ノ支給ヲ一時差止ムヘシ
- 第一條ノ五 恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺

族及其ノ順位ニ依ル

同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其ノ相續人ハ恩給權者死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在リタルコトヲ要ス

第二條 恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得
裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第三條 恩給法第十二條ノ規定ニ依リ内閣恩給局長以外ノ者ニ於テ恩給ヲ受クルノ權利ヲ裁定スヘキ場合ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 内地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス
- 二 前號ニ掲クルモノヲ除クノ外内地ニ於ケル公立ノ學校又ハ圖書館ノ教育職員ニシテ文官ニ非サルモノノ一時恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス
- 三 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル公立ノ小學校、普通學校、公學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在

リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ裁定ス
 四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州(南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム以下同シ)又ハ南洋群島ニ於テ國庫ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員(陸海軍ニ屬スルモノ及樺太ニ於ケル刑務所ニ屬スルモノヲ除ク)及其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督(道ノ警部補、巡查及消防手並其ノ遺族ノ恩給ハ道知事)、臺灣ニ在リテハ臺灣總督(州又ハ廳ノ警部補及巡查並其ノ遺族ノ恩給ハ州知事又ハ廳長)、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ裁定ス

五 内地ニ於テ國庫以外ノ者ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事(警視廳部内ノ職員ニ在リテハ警視總監)之ヲ裁定ス
 六 恩給法第二十四條第三號ニ掲クル待遇職員(國庫ヨリ俸給ヲ給スルモノヲ除ク)及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事(警視廳部内ノ職員ニ在リテハ警視總監)、朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ裁定ス

第四條 恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給、扶助料、一時恩給及一時扶助料トシ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者ヲ異ニスヘキ二種以上ノ公務員ノ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ退職又ハ死亡前一年内ノ俸給年額ニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム但シ退職又ハ死亡ヲ以テ終ラサル在職ニ付テハ右ノ退職又ハ死亡前一年内ノ俸給年額ニ代ヘ在職最終ノ俸給年額(軍人及準軍人ニ付テハ恩給法別表第一號表ノ金額)ニ依ル

前項ニ規定スル退職又ハ死亡前一年内ノ俸給年額ハ恩給法第五十九條ノ二ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算出ス
 恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受クヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年月數ハ分擔請求額計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ歸スヘキ在職年ト看做ス
 分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年月數ニ加算ス

- 一 恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤績在職年ノ一年ニ付一年
 - 二 恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十一條ノ二第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤績ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第三項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ加給セラ
- ルヘキ勤績在職年ノ一年ニ付六月
 前四項ノ規定ハ恩給法第十七條第二項乃至第四項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第五條 恩給ノ分擔ハ支給義務額ニ依リ之ヲ爲スモノトス

第六條 左ニ掲クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

一 地方官官制第二條ニ規定スル府縣判任官

二 都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ

三 神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

四 朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第七條 恩給法第二十一條第二項第二號ノ陸軍又ハ海軍ノ學生生徒トハ陸軍士官學校、陸軍幼年學校

陸軍戸山學校、陸軍工科學校、海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ノ生徒、陸軍ノ士官候補

生、海軍豫備生徒並海軍豫備練習生ニシテ軍人ニ非サルモノヲ謂フ

第八條 恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ハ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス但シ關東州ニ在リ

テハ關東長官之ヲ指定ス

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ關東長官之ヲ定ム

第九條 恩給法第二十二條第三項ノ準教育職員トハ教授心得、助教授心得、教諭心得、助教諭心得、

准訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケサル保姆ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

第十條 恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一 道路管理職員制ニ依ル職員

二 地方土木職員制ニ依ル職員

三 地方産業職員制ニ依ル職員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)

四 地方測候所職員制ニ依ル職員

五 地方學校衛生職員制ニ依ル職員

六 地方社會教育職員制ニ依ル職員

七 地方社會事業職員制ニ依ル職員

八 地方建築職員制ニ依ル職員

八ノ二 地方警察職員制ニ依ル職員

八ノ三 地方體育運動職員制ニ依ル職員

九 防疫職員制ニ依ル職員

十 稅關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員

十一 臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員

十二 應府縣衛生職員制ニ依ル職員

十三 癩療養所職員制ニ依ル職員

十四 家畜防疫職員制ニ依ル職員

十五 朝鮮地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、産業、衛生、社會事業又ハ測候ニ關スル事務又ハ技

術ニ従事スル職員(府費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)

十六 臺灣地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、衛生、産業、物産検査、社會事業又ハ社會教育ノ事務又ハ技術ニ従事スル職員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)

十七 關東州地方待遇職員令ニ依ル地方ノ産業、土木、衛生、教育又ハ行政ニ關スル事務又ハ技術ニ従事スル職員

第十一條 恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一 造幣醫、專賣醫及專賣藥劑師

二 陸軍ノ通譯ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

三 靖國神社附屬遊就館職員ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

四 鐵道醫

五 北海道廳事業手

六 朝鮮ニ於ケル監獄ノ藥劑師、鐵道醫及鐵道藥劑師並臺灣ニ於ケル警察醫

七 臺灣又ハ關東州ニ於ケル檢疫員及檢疫醫員

第十二條 恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一 戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル

地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス

二 戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到着シタル月迄加算ス
前項ノ地域トハ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地域ヲ謂フ

恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一 動員(之ニ準スルモノヲ含ム)部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、動員(之ニ準スルモノヲ含ム)下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス

二 戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル加算ニ付テハ準用ス

第十三條 恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鎮戍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外公務員鎮戍ノ爲内國ヲ出發シタルトキハ内國ヲ離レタル月ヨリ加算シ鎮戍ノ終了後直ニ内國ニ歸還シタルトキハ内國歸著ノ月迄加算ス

第十四條 恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル

一 同月内ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキ又ハ航空機ニ搭乘シ特ニ危険ト認ムル航空試験ニ従事シタルトキハ其ノ一月ニ付一月半

- 二 同月内ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乘シ又ハ五時間以上航空船、航行中ノ艦船繫留ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付一月
- 三 前二號ニ掲クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月
- 第十五條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊陲又ハ不健康ノ地域及其ノ加算ノ程度ハ別表第二號表ニ依ル
- 第十六條 邊陲又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨリ其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到着シタル月ヨリ、其ノ地ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ノ止メタル月ヲ以テ終ル
- 前項ノ地域ニ在勤中引續キ九十日以上其ノ地域ヲ離レタルトキハ全ク地域ヲ離レタル月ニ對シテハ邊陲又ハ不健康ノ地域ノ加算ヲ爲サス
- 第十七條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依ル不健康業務ノ加算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ
 - 一 有毒ノ瓦斯若ハ蒸氣、爆藥類又ハ危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接ニ従事スル勤務ニシテ内閣總理大臣ノ指定スルモノ
 - 二 排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艦、水雷艇若ハ掃海艇乗員トシテノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸汽機關車乗員トシテノ現業勤務
 - 三 炭坑内切羽ニ於ケル連續的現業勤務

- 四 肺結核、喉頭結核又ハ癩ノ患者ヲ收容スル病室ニ於テ直接看護ニ従事スル勤務
- 前項ニ規定スル業務ニ從事中引續キ三十日以上服務セサルトキハ全ク服務セサル月ニ對シテ不健康ノ業務ノ加算ヲ爲ス
- 第十八條 恩給法第三十九條ノ遠洋航海トハ北緯五十度以北、東經百六十度以東、東經百六十度北緯四十度ノ點ト東經百四十度北緯二十度ノ點トヲ連結スル線ノ以東以南、北緯二十度以南及東經百十度以西ノ海面ヲ航行シ一航程千哩ヲ超ユル航海ヲ謂フ
- 第十九條 航海加算ハ初發港出發ヨリ之ニ歸著シ又ハ到達港ニ達スル迄ノ期間ニ對シ之ヲ爲ス但シ出發ニ當リ内國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ヲ離レタル月ヨリ加算シ歸著ニ際シ内國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ニ到着シタル月迄加算ス
- 航海中引續キ三十日以上航行セザルトキハ全ク航行セサル月ニ對シテハ航海加算ヲ爲サス
- 第十九條ノ二 恩給法第四十條ノ二ニ規定スル期間一月以上ニ亙ルトキハ其ノ期間カ在職年ノ計算ニ於テ一月以上ニ計算セラルル總テノ場合ヲ謂フ但シ現實ニ職務ヲ執ルヲ要スル日ノアリタル月ハ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減セス
- 第二十條 恩給法第四十四條ノ本俸ニ準スヘキモノトハ左ニ掲クルモノヲ謂フ
 - 一 年功ニ因ル加俸

- 二 府縣知事ノ指定地加俸
- 三 官立又ハ公立ノ大學ノ教授又ハ助教ノ職務俸
- 四 第一號ニ掲クルモノヲ除クノ外市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸
- 五 警察監獄職員ノ精勤加俸及功勞加俸
- 第二十一條 恩給法第四十八條第一項第一號ニ規定スル流行病及地域ハ別表第三號表ニ依ル
- 第二十二條 恩給法第四十八條第一項第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ
 - 一 マラリア(黒水熱ヲ含ム)
 - 二 猩紅熱
 - 三 コレラ
 - 四 脚氣(戰地ニ限ル)
 - 五 發疹チフス
 - 六 腸チフス
 - 七 バラチフス
 - 八 ペスト
 - 九 回歸熱

- 十 赤痢
- 十一 流行性腦脊髄膜炎
- 十二 流行性感胃
- 十三 肺ヂストマ病
- 十四 トリパノゾーム病
- 十五 ワイルス氏病
- 十六 カラアザール
- 十七 黃熱
- 第二十三條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依ル戰鬥ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病トハ左ニ掲ク
ルモノヲ謂フ

- 一 戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病
- 二 暴徒鎮壓又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊蕃人等討伐中ノ敵對行動ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病
- 三 外國ノ交戦若ハ擾亂ノ地域内ニ於テ勤務中又ハ該地域内ヲ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戦又ハ擾亂ニ因ル傷痍疾病

- 四 航空機ニ乗シ航空勤務中又ハ潜水艦ニ乗シ潜航勤務中ノ不可抗力ニ因ル傷疾疾病
 - 五 職務ヲ以テ兇賊又ハ脱獄囚ヲ逮捕スルニ當リ危害ヲ加ヘラルヘキコトヲ豫斷シ得ルニ拘ラス危険ヲ冒シテ其ノ職務ヲ執行シタル爲加ヘラレタル傷疾疾病
 - 六 職務ヲ以テコレヲ又ハベストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲罹リタル該疾病
 - 七 急流其ノ他生命ノ危険ヲ感スヘキ事情ノ下ニ於ケル潜水勤務ニ因ル傷疾疾病
- 第二十四條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ不具癩疾ノ程度ヲ分チテ左ノ七項トス

特別項症

- 一 常ニ就床ヲ要シ且複雑ナル介護ヲ要スルモノ
- 二 重大ナル精神障碍ノ爲常ニ監視又ハ複雑ナル介護ヲ要スルモノ
- 三 身體諸部ノ障碍ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

- 一 複雑ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ
- 二 精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キサルモノ
- 三 咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ癩シタルモノ
- 四 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 五 肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

- 六 膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

- 一 精神的又ハ身體的作業能力ヲ大部ヲ失ヒタルモノ
- 二 咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ癩シタルモノ
- 三 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 四 兩耳全ク聾シタルモノ
- 五 腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
- 六 足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

- 一 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
- 二 兩耳全ク失ヒタルモノ
- 三 肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
- 四 膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ
- 五 兩耳ノ聽力カ耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

第四項症

- 一 泌尿器ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

- 二 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 三 腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
- 四 足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項症

- 一 鼻ヲ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
- 二 頭部、顔面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ
- 三 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 四 一側總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第六項症

- 一 頸部又ハ軀幹ノ運動ニ大ニ妨アルモノ
- 二 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 三 一側拇指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 四 一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷疾疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス

視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル
第二十四條ノ二 恩給法第四十九條第二項ニ規定スル傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ四

款トス

第一款症

- 一 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 二 一耳聾シタルモノ
- 三 一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 四 一側鞏丸ヲ全ク失ヒタルモノ

第二款症

- 一 一耳ノ聽力カ耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ
- 二 一側拇指ノ機能ヲ廢シタルモノ

第三款症

- 一 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ三メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 二 一耳ノ聽力カ十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ
- 三 一側示指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 四 一側第一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四款症

- 一 一側中指ヲ全ク失ヒタルモノ

- 二 一側示指ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 三 一側第二趾ヲ全ク失ヒタルモノ
- 四 一側第一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付之ヲ準用ス

第二十四條ノ三 恩給法第五十八條第一項第四號ニ規定スル恩給外ノ所得ハ恩給受給者カ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スル場合ノ所得ニ限ル但シ左ニ掲クル所得ハ右地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セサルトキト雖之ヲ所得中ニ算入ス

- 一 恩給受給者カ右地域内ニ有スル資産又ハ營業ヨリ生スル所得
 - 二 右地域内ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ恩給受給者ノ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ俸給、賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與
- 恩給受給者カ前項ノ地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スルトキハ右地域外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ト雖之ヲ恩給外ノ所得中ヨリ除外セス

第二十四條ノ四 前條第一項第二號ニ掲クルモノ以外ノ恩給外ノ所得ハ所得税法ニ規定スル個人ノ第三種所得ト同範圍トス

所得税法第十八條第一號乃至第五號ニ掲クル所得之ヲ恩給外ノ所得中ヨリ除外ス

第二十四條ノ五 恩給外ノ所得ノ計算ニ關シテハ所得税法第十四條第一項及第二項並所得税法施行規

則第七條及第八條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條ノ六 恩給外ノ所得ハ毎年稅務署長ノ調査ニ依リ裁定官廳之ヲ決定ス

裁定官廳ハ恩給外ノ所得ノ調査ヲ要スル恩給受給者ノ氏名、住所又ハ居所及恩給年額ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

稅務署長恩給外ノ所得ノ調査ヲ結了シタルトキハ之ヲ裁定官廳ニ報告スヘシ

前三項中稅務署長トアルハ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ在リテハ各其ノ地域ニ於ケル稅務官署トス

第二十四條ノ七 恩給法第五十八條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ハ恩給外ノ所得ノ決定ニ基キ其ノ年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル期間分ノ恩給ニ付テ之ヲ爲ス但シ其ノ前年以前ノ分ノ恩給ニ付停止ヲ爲スヘキ場合ニ於テ恩給ノ請求又ハ裁定ノ遅延ニ依リ一般ノ手續ニ依リテ恩給外ノ所得ヲ調査決定スルコトヲ得サルトキハ前條ニ規定スル調査決定ノ機關ハ其ノ分ニ付テハ一般ノ場合ニ準シ臨時ニ恩給外ノ所得ヲ調査決定ス此ノ場合ニ於テハ其ノ停止額ハ後ノ恩給支給額中ヨリモ之ヲ控除スルコトヲ得

恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル年分ノ恩給ニ付テハ恩給法第五十八條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ノ手續ヲ行ハス

恩給外ノ所得額ノ追加又ハ更訂アリタルトキハ恩給ノ停止額モ之ヲ更正ス

恩給給與ノ止ムヘキ事由生シタル場合ニ於テハ恩給ノ停止ハ其ノ事由ノ生シタル翌月迄ノ恩給ニ付之ヲ爲ス

第二十四條ノ八年額千圓以上ノ恩給ヲ受クル者ニシテ朝鮮、關東州若ハ南洋群島ニ住所若ハ一年以上ノ居所ヲ有シ又ハ同地域ニ住所若ハ一年以上ノ居所ヲ有セサルモ同地域内ニ有スル資産若ハ營業ヨリ生スル所得ヲ得ルモノハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ裁定官廳カ内閣恩給局長ナルトキハ夫々朝鮮總督府、關東廳又ハ南洋廳ヲ經由シテ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ裁定官廳カ地方長官ナル場合ニ於テ恩給受給者カ裁定官廳ノ管轄内ニ住所又ハ居所ヲ有スルトキハ直接ニ裁定官廳ニ、然ラサルトキハ住所又ハ資産若ハ營業ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シテ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ

年額千圓以上ノ恩給ヲ受クル者ニシテ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セシテ第二十四條ノ三第一項但書第二號ニ規定スル所得ヲ得ルモノハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ直接ニ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ

第二十四條ノ九 恩給法第五十九條ノ二ニ規定スル退職前一年前一年内ノ俸給ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ例ニ依ル

一 初任ノ月ニ於テ日割計算ヲ以テ俸給ヲ給セラレタル場合ニ於テモ全月分ヲ以テ其ノ月ノ俸給額トス

二 月ノ中途ニ於テ昇給アリタルトキハ昇給後ノ俸給額ヲ以テ其ノ月ノ俸給額トス

三 休職、罰俸等ノ事情ニ依リ本來給與セラルヘキ俸給ニ比シ一時的ニ少額ヲ給セラレタル場合ニ於テモ本來給與セラルヘキ俸給額ニ依ル

第二十四條ノ十 恩給法第五十九條ノ二第一項但書ニ規定スル一級ノ昇給ニ付テハ左ノ例ニ依ル

一 級俸ノ定アル場合ニ於テ當分給トシテ給與級俸ヨリ少額ノ俸給ヲ給セラレタル者ニ付テハ給與級俸ノ直近上位ノ級俸ノ額ニ給與級俸ニ對シ當分俸給カ有スル割合ヲ乘シタルモノ（圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム）ヲ以テ當分俸給ニ對スル一級上位ノ俸給額トス級俸ノ定アル場合ニ於テ月俸七十五圓未滿ノモノニ付級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ給與シタルトキ亦同シ

二 同一級俸ニ付上下ノ區分アル場合ニ於テハ其ノ上俸ハ之ヲ下俸ニ對スル一級上位ノ俸給ト看做ス

三 轉官職ニ依リ昇給ヲ來ス場合ニ於テハ新官職ニ付定メラレタル級俸中前ノ官職ニ付給セラレタル俸給ニ直近ニ多額ナルモノヲ以テ一級上位ノ俸給トス但シ其ノ額カ前官職ニ付給セラレタル俸給ニ其ノ百分ノ十五ヲ加ヘタル金額ニ達セサルトキハ之ニ達スル金額ヲ以テ一級上位ノ俸給ト看做ス

第二十五條 準文官ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一 高等官ノ試補ハ判任官一等トシ判任官見習ハ同四等トス

- 二 國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニ付テハ其ノ官等等級ニ依ル
- 第二十六條 準軍人ノ公務傷病等ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル
 - 一 陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生ハ判任官一等トス
 - 二 前號ニ掲ケサル陸軍ノ士官候補生、陸軍士官學校生徒、海軍兵學校生徒、海軍機關學校生徒、海軍經理學校生徒及海軍豫備生徒ハ判任官三等トス
 - 三 前二號ニ掲ケサル陸海軍諸生徒及海軍豫備練習生ノ階等ハ兵ニ準ス
- 第二十七條 教育職員及準教育職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル
 - 一 教育職員ノ階等ハ其ノ官等等級又ハ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル
 - 二 準教育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等等級令別表第二表ノ例ニ準ス
- 第二十八條 警察監獄職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ判任官四等トス但シ警部補ハ其ノ等級ニ依ル
- 第二十九條 待遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ其ノ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル
- 第三十條 恩給法第六十二條第五項ニ規定スル中學校ト同等以下ノ程度ノ學校トハ左ニ掲クルモノヲ謂フ
 - 一 師範學校
 - 二 高等女學校
 - 三 專門學校令ニ依ラサル實業學校(實業補習學校ヲ除ク)
 - 四 中學校又ハ前二號ニ掲クル學校ニ準スヘキ學校
 - 五 實業補習學校教員養成所
 - 六 朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル中學校又ハ第一號乃至第三號若ハ第五號ニ掲クルモノニ準スヘキモノ
 - 七 在外指定學校ニシテ中學校又ハ第一號乃至第三號ニ掲クル學校ニ準スヘキモノ

第三十條ノ二 恩給法第六十四條ノ二但書ノ規定ニ依ル一時恩給ノ返還ハ之ヲ負擔シタル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ再就職ノ月ノ翌月ヨリ一年內ニ一時ニ又ハ分割シテ之ヲ完了スヘシ

前項ノ規定ニ依リ一時恩給ノ全部又ハ一部ヲ返還シ失格原因ナクシテ再在職ヲ退職シタルニ拘ラス普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生セサル場合ニ於テハ一時恩給ノ返還ヲ受ケタル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ返還者ニ還付スヘシ

第三十一條 恩給法第六十六條第四項ノ規定ニ依リ傷病賜金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ六目トス

第一目症

- 一 一眼ノ視力カ〇・一ニ滿タサルモノ
- 二 一側中指ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 三 一側第二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第二目症

- 一 一側環指ヲ全ク失ヒタルモノ

第三目症

- 一 一眼ノ視力カ〇・二ニ滿タサルモノ
- 二 一耳ノ聽力カ四十センチメートル以上ニテハ叫語ヲ解シ得サルモノ
- 三 一側環指ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 四 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四目症

- 一 一側小指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 二 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第五目症

- 一 一眼ノ視力カ〇・三ニ滿タサルモノ
- 二 一耳ノ聽力カ一メートル以上ニテハ叫語ヲ解シ得サルモノ

- 三 一側小指ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 四 一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第六目症

- 一 一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ
 - 二 前目ノ名症ニ次ク症ヲ殘シタルモノ
- 第二十四條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付之ヲ準用ス
- 第三十二條 第十六條ノ規定ハ恩給法第九十一條又ハ第九十二條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 恩給法第九十六條ノ規定ニ依リ在職最終俸給年額ニ増加スヘキ金額ハ別表第四號表ノ區分ニ依ル

第三十四條 削除

第三十五條 廢官、廢職、廢廳、廢校若ハ官職名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在リタル者又ハ定員ノ減少ニ因リ退職シタル者即日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ恩給法ノ適用ニ付テハ之ヲ勤續ト看做ス

第三十六條 恩給法第一百一條ノ規定ニ依ル増額ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 軍人以外ノ公務員ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ

- 一 基礎ト爲リタル俸給カ大正九年七月三十一日以前ノ俸給令ニ依ルモノナルトキハ別表第四號表
- 二 基礎ト爲リタル俸給カ大正九年七月三十一日以前ノ俸給令ニ依ルモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額
- 三 基礎トシテ恩給法第六十條、第六十二條、第六十三條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル
- 四 年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス
- 五 軍人又ハ準軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ別表第五號表ニ依
- 六 リ當該軍人又ハ準軍人ノ階等ヲ定メ恩給法第六十一條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年
- 七 額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス
- 八 增加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等並別表第六號表ニ依リ定メタル傷病ノ
- 九 原因及不具癡疾ノ程度ニ從ヒ恩給法第六十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ增加恩
- 一〇 給ノ年額トス但シ陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高俸ヲ受ケタルモノノ階等ハ之ヲ尉官
- 一一 トシテ名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス
- 一二 第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ增加恩給年額ノ更正ニ付之ヲ準用ス
- 一三 執達吏ノ恩給ヲ更正スル場合ニ於テハ第一號ノ規定ニ依ラス六百圓ヲ俸給年額ト看做シ恩給法
- 一四 第六十條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス
- 一五 前項ノ増額ヲ爲ス場合ニ於テハ外國勤績ニ因ル加給ハ之ヲ爲サス
- 一六 第三十七條 恩給法第二百一條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ増額スル場合ニ於テハ

其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第七號表ニ依ル假定俸給年額ニ
增加シ之ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ恩給法第二百一條ノ規定ヲ適用ス

附 則

- 第三十八條 本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第三十九條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス
 - 一 明治二十四年勅令第二百四十八號
 - 一 明治二十七年勅令第五十二號
 - 一 明治二十七年勅令第八十一號
 - 一 明治二十七年勅令第四百十五號
 - 一 明治三十一年勅令第二百四十四號
 - 一 明治三十二年勅令第二百一號
 - 一 明治三十三年勅令第七十三號
 - 一 明治三十三年勅令第四百四號
 - 一 巡查看守退職料及遺族扶助料法施行令
 - 一 明治三十四年勅令第五十號

恩給法施行令

- 一 明治三十五年勅令第百五十七號
- 一 明治四十一年勅令第百三十七號
- 一 明治四十三年勅令第百二十七號
- 一 明治四十四年勅令第七十號
- 一 大正六年勅令第二百四十一號
- 一 大正六年勅令第二百四十二號
- 一 大正九年勅令第三百二十三號
- 一 明治十八年第十五號達官吏恩給令附則
- 一 明治十八年第十六號達文官傷痍疾病等差例
- 一 明治十八年第四十號達陸軍恩給令附則
- 一 第四十條 第十條各號ニ掲クル官制ニ依リ廢止セラレタル官制又ハ其レニ依リ廢止セラレタル官制ニ依リテ判任官以上ノ待遇ヲ受ケタル職員ハ在職年通算ノ關係ニ於テハ之ヲ當該各號ニ掲クル官制ニ依ル職員ト看做ス

附

則

(大正十三年勅令
第五十一號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ水雷艇乗員トシテノ勤務ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附

則

(大正十三年勅令
第四百七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

港務部設置制ニ依ル待遇職員ハ仍之ヲ第十條第十號ニ掲クル待遇職員ト看做ス

附

則

(大正十五年勅令
第二百四十四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

郡判任官ハ仍之ヲ第六條第一號ニ掲クル文官ト看做ス

附

則

(昭和八年九月勅令
第二百三十六號)

第一條 本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條ノ改正規定中一時恩給及一時扶助料ニ關スル部分、第二十四條ノ二乃至第二十四條ノ八竝ニ附則第三條及第四條ノ規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 昭和八年九月三十日以前ニ給與事由ノ生シタル普通恩給及扶助料ノ分擔ニ付テハ第四條第一項ノ規定ノ改正ニ拘ラス其ノ分擔請求額ハ仍改正前ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

恩給法施行令

第三條 昭和八年法律第五十號附則(以下單ニ改正法律附則ト稱ス)第七條但書ノ規定ニ依リ給スヘキ

傷病年金ハ前ニ傷病賜金ヲ受クルノ權利ヲ生シタル者ニ付テハ之ヲ生シタル月ヨリ起算シ新ニ受ク

ヘキ恩給法別表第三號表ノ傷病年金額ヲ以テ其ノ者ノ受ケタル傷病賜金額ヲ除シテ得タル數ニ相當

スル年數ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ給セス

前項ノ年數ノ一年ニ滿タサル部分ハ之ヲ月ニ換算シ月ニ滿タサルモノハ之ヲ切捨ツ

第四條 改正法律附則第九條ニ規定スル場合ニ於テハ左ノ例ニ依ル

一 轉官職ニ依リ新官職ニ付前俸給ヨリ多額ノ俸給ヲ給セララルニ至ルトキハ之ヲ昇給ト看做ス

二 本俸ト之ニ準スヘキモノト併セ受ケタル場合ニ於テ其ノ一ニ付昇給又ハ増額アリタルトキハ改

正法律附則第九條ノ規定ニ依リ本俸及之ニ準スヘキモノノ總テニ付同法第五十九條ノ改正規定

ヲ適用ス

三 俸給ノ法令ニ依ル増額アル場合ニ於テ其ノ増額分カ恩給法第五十九條ノ規定ノ改正ニ依リ増加

シ又ハ新ニ納付スヘキニ至リタル額以上ナルトキニ限り俸給ハ増額セラレタルモノトシ之ニ及

ハサルトキハ其ノ増額ナカリシモノトシテ取扱フ

第五條 改正法律附則第十五條第一項但書ノ規定ニ依リ改正普通恩給ヨリ控除スル金額ノ年額ハ改正

ニヨリ増額スル金額ノ一年分ト同額トス

控除ハ控除金額ノ總額カ一時恩給金額ニ達シタルトキヲ以テ之ヲ止ム

第六條 改正法律附則第十七條以下ノ規定ニ依リ同法施行後仍削除セラレタル恩給法第九十九條ノ規

定ニ依ルヘキ場合ニ於テ同條ニ規定スル教育事務ニ從事スル文官トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一 官立ノ學校又ハ圖書館ノ職員

二 文部省官吏

三 教育事務從事ノ北海道廳、府、縣、郡、島廳、朝鮮總督府、朝鮮總督府道府郡島、臺灣總督府

臺灣總督府州廳郡市、樺太廳、關東廳又ハ南洋廳ノ官吏

四 臺灣公立學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノ

五 教育事務從事ノ從前ノ區、統監府又ハ關東都督府ノ官吏

第七條 大正十三年勅令第四百七號附則第二項中「第六號」ヲ「第十號」ニ改ム

附 則

(昭和八年勅令 第三百五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依ル北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

(別表) 略

三、恩給給與細則

(昭和八年十月一日
岩手縣令第二十號)

- 第一條 恩給法第十二條、同法施行令第三條ニ依リ知事ノ裁定ニ係ル恩給請求書類ハ別紙第一號乃至第十四號書式ニ準シテ之ヲ作成シ知事ニ差出スヘシ
- 第二條 恩給ノ請求ヲ却下シタル場合ニ於テハ請求者ニ對シ其ノ旨ヲ通知ス
- 第三條 恩給給與規則第三十六條ノ規定ニ依リ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付ヲ申請セムトスル者ハ別紙第十五號書式ニ準シ再交付申請書ヲ作り左ノ書類ヲ添付シ之ヲ知事ニ差出スヘシ
- 一 恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シタルモノナルトキハ亡失ノ顛末及亡失後ニ於テ執リタル措置ヲ記載シタル書類竝ニ其ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ警察官署等ノ公ノ證明書但シ裁定通知書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ警察官署等ノ公ノ證明ヲ要セス
- 二 恩給證書又ハ裁定通知書ヲ毀損シタルモノナルトキハ其ノ顛末書及毀損シタル恩給證明書又ハ裁定通知書
- 第四條 年金タル恩給ノ支給ハ左ノ各號ニ依ル
- 一 盛岡市、淺岸村、中野村、太田村、本宮村、厨川村、築川村、瀧澤村、藪川村(以上岩手郡)飯岡村、見前村(以上紫波郡)ノ居住者ハ毎支給期月十日以後ニ於テ内務部會計課長ニ恩給證書ヲ

- 呈示シ支拂通知書ノ交付ヲ受クヘシ但シ居住地市町村長ヨリ支拂通知書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第二號ノ例ニ依ル
- 二 縣内ニシテ前號以外ノ地ニ居住スル者ニ在リテハ毎支給期月ノ十五日以後ニ於テ居住地ノ町村長ニ恩給證書ヲ呈示シ支拂通知書ノ交付ヲ受クヘシ支拂期月内ニ交付ヲ受ケサル者ニ在リテハ第三號ノ規定ニ依リ隨時知事ニ請求ヲ爲スヘシ
- 三 縣外ノ居住者ニ在リテハ恩給證書ヲ居住地ノ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ニ呈示シ別紙第十六號書式ニ依ル請求書ニ恩給受給權者タルノ奥書證明ヲ受ケ知事ニ請求スヘシ
- 第五條 受給權者ハ前條ノ規定ニ拘ラス居住地外市町村長又ハ内務部會計課長ニ恩給證書ヲ呈示シ前條ノ例ニヨリ支拂通知書ノ交付ヲ受クタルコトヲ得
- 前條第一號但書ノ場合及前項ノ場合ニ於テハ其ノ旨支給期月ノ前月二十五日迄ニ別紙第十七號書式ニ準シ知事ニ届出ツヘシ
- 第六條 第四條第二號ノ支拂通知書ハ別紙第十八號書式ノ送付書ヲ添へ縣本金庫ヲ經由シ豫メ市町村長ニ之ヲ送付ス
- 前條ノ通知書ニ依ル支拂金ニシテ送金拂ヲ要スルモノナルトキハ縣本金庫ハ支拂通知書ト共ニ之カ金券ヲ市町村長ニ送付スヘシ
- 第七條 市町村長ハ第四條第二號ノ規定ニ依リ恩給證書ノ呈示ヲ受ケタルトキハ之ヲ檢閲シ受給權者

タルコトヲ確認シタルトキハ支拂通知書及前條ノ金券ヲ交付シ前條ニ依ル送付書相當欄ニ交付月日ヲ記入捺印セシメ翌月五日迄ニ知事ニ回付スヘシ但シ受給權ナキコトヲ認メタルトキ又ハ支給期月内ニ恩給證書ノ呈示ナキトキハ送付書ニ其ノ事由ヲ記載シ之カ支拂通知書及金券ヲ添付スヘシ

市町村長ハ前項ニ依リ金券ヲ交付シタルトキハ受取人ヲシテ支拂通知書相當欄ニ受領年月日ヲ記載シ署名(代理者ニ係ルトキハ其ノ旨ヲ記載ス)捺印セシメ速ニ縣本金庫ニ送付スヘシ

第八條 本令ニ依リ恩給金ノ支給ヲ請求シ又ハ恩給證書ノ呈示ヲ爲ス場合ニシテ代理人ヲ以テスルトキハ本人ノ委任狀ヲ添付又ハ呈示スヘシ

第九條 昭和八年法律第五十號附則第十四條ノ規定ニ依リ更正スヘキ扶助料ノ更正手續及同法附則第十五條ノ規定ニ依リ改定スヘキ普通恩給ノ請求手續ハ昭和八年閣令第三號「昭和八年法律第五十號附則ニ依ル恩給更正及請求手續」ヲ準用ス

附 則

第十條 本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條乃至第八條ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 現ニ年金タル恩給ヲ受クル者ニシテ第四條第一號又ハ第二號ニ依リ恩給金ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ昭和九年三月三十一日迄ニ其ノ旨知事ニ届出ツヘシ

第一號書式

普通恩給請求書

年 月 日 (官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證據書類相添へ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地
現住所

年 月 日
岩手縣知事 氏 名 殿
氏 名 印

第二號書式

普通恩給請求書

增加恩給請求書

年 月 日 (官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給及增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添へ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地
現住所

恩給給與細則

岩手縣知事 氏 年 月 日 名殿

氏

八〇

名印

第二號書式ノ二

傷病年金請求書

年 月 日 (官職)ヲ退職候ニ付傷病年金ヲ給與相成度證據書類相添へ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名印

岩手縣知事 氏 名殿

第三號書式

增加恩給請求書

年 月 日 (官職)ヲ退職致候處在職中ノ傷痍(疾病)爾後重症ニ赴キ候ニ付增加恩給

ヲ給與相成度證據書類相添へ請求候也

改定

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名印

岩手縣知事 氏 名殿

第三號書式ノ二

傷病年金請求書

年 月 日 (官職)ヲ退職致候處在職中ノ傷痍(疾病)爾後重症ニ赴キ候ニ付傷病年金

給與相成度證據書類相添へ請求候也

改定

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名印

岩手縣知事 氏 名殿

恩給給與細則

第四號書式

扶助料請求書

右者 年 月 日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者
本籍地
現住所

氏 名印

岩手縣知事 氏 名殿

第五號書式

扶助料請求書

右者 年 月 日失權候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係
本籍地
現住所

前扶助料權者 氏 名

岩手縣知事 氏 名殿

年 月 日 氏 名印

第六號書式

一時恩給請求書

年 月 日(官職)ヲ退職致候ニ付一時恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

氏 名印

岩手縣知事 氏 名殿

第七號書式

一時扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者ノ退職當時官職名 氏 名
右者 年 月 日死亡候ニ付恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類

恩給給與細則

相添へ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係

本籍地
現住所

年月日

氏

名印

岩手縣知事 氏

名殿

第八號書式

一時扶助料請求書

公務員ノ官職名

氏

名

右者 年 月

日在職中死亡候ニ付恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添へ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

年月日

氏

名印

岩手縣知事 氏

名殿

第九號書式

扶助料轉給請求書

停止中ノ扶助料權者

氏

名

右者 犯罪

ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ轉給相成度證據書類相添へ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

年月日

氏

名印

岩手縣知事 氏

名殿

第十號書式

扶助料停止請求書

停止セラルヘキ扶助料權者

氏

名

右者 年 月

日以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類相添へ請求候也

恩給給與細則

恩給給與細則

八六

公務員トノ身分關係

年 月 日

申請者 氏

名 印

岩手縣知事 氏

名 殿

第十一號書式

再 審 査 請 求 書

年 月 日 退職ニ因リ普通恩給及増加恩給ヲ給セラレ候處未タ傷痍(疾病)回復セサル
ヲ以テ再審査相成度證據書類相添へ請求候也

退職當時ノ官職名

本 籍 地

現 住 所

年 月 日

氏

名 印

岩手縣知事 氏

名 殿

第十一號書式ノ二

再 審 査 請 求 書

年 月 日 退職ニ因リ傷病年金ヲ給セラレ候處未タ傷痍(疾病)回復セサルヲ以テ再審
査相成度證據書類相添へ請求候也

退職當時ノ官職名

本 籍 地

現 住 所

年 月 日

氏

名 印

岩手縣知事 氏

名 殿

第十二號書式

在 職 履 歴 書

退職當時ノ官職名

氏

年 月 日 生 名

年 月 日	記	事	官 公 署 名
-------	---	---	---------

恩給給與細則

八七

右ノ通相違無之候也

年 月 日

氏

名 印

備考 一 履歷書ハ二通提出スヘシ

一 學歷、位記、動記、賞與等ノ記載ヲ要セス

一 官職、任免、轉任、陞等、昇給等ハ順ヲ違ヒ間隙ナキ様ニ詳記スヘシ

一 退職ノ事由ヲ明記スヘシ

第十三號書式

現認證明書

公務員ノ官職名

氏

名

右者 年 月 日 午前(後) 時

下ニ負傷(疾病)シタルコトヲ現認候也

住所又ハ官職名

現認者

年 月 日

氏

名 印

備考 本證明書ニハ傷病當時ノ狀況ヲ成ルヘク詳細ニ記載シ現認者多數アルトキハ二名以上連名スヘシ

第十四號書式

事實證明書

公務員ノ官職名

氏

名

右者 年 月 日ヨリ(何)ニ從事中 年 月 日(何)ノ狀況ニ於テ(何)ニ從事

シ 月 日頃ヨリ(何)ノ症狀アルヲ訴ヘ爾後(何)ノ處置ヲ施シタリ

右證明ス

所屬長

氏

名 印

年 月 日

備考 本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スヘシ

第十五號書式

恩給證書(裁定通知書)再交付申請書

一 恩給證書ノ記號番號(裁定通知書番號)

恩給給與細則

恩給給與細則

九〇

- 一 恩給證書ノ日附（裁定通知書ノ日附）
- 一 恩給金額

右恩給證書（裁定通知書）ヲ亡失（毀損）致候ニ付再交付相成度證據書類相添へ及申請候也

年 月 日

退職當時ノ官職名（續柄）

本籍地

現住所

氏

名印

岩手縣知事 氏

名殿

第十六號書式

普通恩給
增加恩給
扶助金
傷病年金
請求書

元公務員ノ官職名（扶助料ノ場合ハ故公務員ノ官職名續柄）

本籍地

現住所

氏

名印

年 月 日

岩手縣知事 氏

名殿

證書 番號	記號	請求額	年額	支給期	給付月	備考
(官)第 (警)第	號	「參〇七五〇〇」	「壹貳參〇〇〇〇」	自 年 月 至 年 月	月	

右請求候也

前記ノ請求ハ正當ナルコトヲ證明ス

年 月 日

市町村長

氏

名印

注意

- 一 本請求書ニ用ヒル金額ノ數字ハ必ス「壹」「貳」「參」ノ字體ヲ用フヘシ
- 一 新ニ恩給ノ支給ヲ受ケムトスル場合ハ「初期支給何年何月ヨリ給與」權利消滅ノ場合ハ「何年何月何日何事由ノ爲權利消滅」ト備考欄ニ記入スヘシ

恩給給與細則

九一

恩給給與細則

九二

- 一 在官在職年ヲ合算若ハ通算スルコトヲ得ヘキ官職ニ再就職シタル場合ハ退職當時俸給額、現職名、就職年月日並ニ俸給額及加俸額ヲ備考欄ニ記入スヘシ
- 一 前支給期以後前項ノ俸給其ノ他ニ異動アリタルトキハ其ノ年月日前後ノ俸給額並ニ加俸額退職ノ場合ハ其ノ年月日等ヲ記入スヘシ
- 一 死亡シタル恩給權者生存中ノ恩給ヲ遺族又ハ相續人ヨリ請求スル場合ニ於テハ元公務員ノ官職名(扶助料ニ在リテハ故公務員ノ官職名續柄)ノ次ニ請求者氏名續柄ヲ記載シ戶籍謄本ヲ添付スヘシ
- 一 前各號ノ外每期ノ支給額ニ異動ヲ生シタル事由アルトキハ其ノ旨備考欄ニ詳記スヘシ
- 一 扶助料請求者ニシテ未成年ノ者ハ生年月日ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第十七號書式

年 月 日

本籍地
現居住地

元公務員ノ官職氏名(扶助料ノ場合ハ故公務員ノ官職名續柄)

氏 名 印

岩手縣知事 氏

名 殿

恩給金支給場所變更届

- 一 恩給ノ種類
- 二 證書ノ記號番號
- 三 恩給ノ年額
- 四 現在支給ヲ受ケ居ル場所
- 五 變更ニ依ル支給場所

右昭和 年 月ノ支給期月分ヨリ變更相成度此段及御届候也

(注意)

- 一 恩給ノ種類ニハ普通恩給、増加恩給、扶助料、傷病年金等ノ種類ヲ記載スルコト
- 一 現在支給ヲ受ケ居ル場所ニハ前期恩給ヲ受ケタル内務部會計課長若ハ何地市町村長ト記載シ縣外ノ場合ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコト
- 一 變更ニ依ル支給場所ニハ内務部會計課長若ハ何地市町村長ト記載シ縣外ノ場合ハ其ノ旨ヲ記載スルコト
- 一 本届ハ支給期月ノ前月二十五日迄ニ當廳ニ到達セサル場合ハ變更相成難キニ付特ニ注意ヲ要ス

恩給給與細則

九三

送付書	年月日	知事	年月日	回付書	市町村長
市町村長宛			知事宛		
種類	支給額	住所氏名	番證書	交付年月日	領收者印
					備考

備考

- 一 代理者ニ交付シタル場合ハ第八條ノ委任狀ヲ通知書ニ添付シ備考欄ニ其ノ旨記入スヘシ
- 一 受給權ナシト認メタルトキ又ハ支給期月ニ恩給證書ノ呈示ナキ者ニ對シテハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記入スヘシ

四、昭和八年法律第五十號ニ依ル恩給法中改正ノ要點 (括弧内ハ條項ヲ示ス)

一、普通恩給年限ノ延長

原則トシテ二年宛延長サレ文官(六〇)教育職員(六二)及待遇職員(六四)ハ十七年ニ准士官以上ノ軍人(六一)ハ十三年ニ警察監獄職員ハ(六三)十二年ニナツタ。例外トシテ下士官以下ノ軍人(六一ノ二)ダケハ一年延長シテ十二年ニナツタ。
又此ノ年數ニ對スル恩給算出率ハ基礎俸給ノ百五十分ノ五十デアルカラ從前ニ比シ下士官以下ノ軍人ハ百五十分ノ一、其他ノ公務員ハ總テ百五十分ノ二ツ、減少シタ。

二、基礎恩給ノ變更

原則トシテ恩給額算出ノ基礎俸給ヲ退職前一年内ニ受ケタ俸給ノ總計トシタ(五九ノ二)例外トシテ二年以上同一俸給ヲ受ケテ退職前一年内ニ昇給シタ場合及、公務傷病ニ因ル恩給ノ場合ニハ一級又ハ一割五分ダケ(五九ノ二)又同種公務員トシテ二十年以上勤續シ特殊ノ事情ヲ認メラル、場合ニハ二級又ハ三割ダケ(附一〇)退職一年前カラ昇給シタ者ト看做シテ基礎俸給ヲ決定スル。

三、一時恩給及一時扶助料ノ最短年限

一時恩給及、一時扶助料ハ三年以上勤續シタル者ニノミ給スルコトニナツタ。(六七、六八、七〇、

八二)

四、公務員ノ恩給納金ノ新設及増率

昭和九年四月一日以降ニ昇給シタリ、就職シタリスルト文官、中等程度以上ノ教育職員及、待遇職員ハ納金ヲ俸給ノ百分ノ二ニ増率セラレ、軍人(兵ヲ除ク)小學校程度ノ教育職員及警察刑務所職員ハ新ニ俸給ノ百分ノ一ヲ納金スルコトニナツタ。(五九、附九)

五、教育職員ノ通算停止關係ノ一般化

(九九條ノ廢止)

恩給法第九十九條ヲ廢止シテ教育職員ト他ノ公務員トノ在職年數ノ通算ヲ認メ恩給停止關係其他ノ公務員ト同様ニシタ、但シ従前ノ差額給與ノ利益ヲ享ケタ在職年ノ不通算等種々ノ經過規定ヲ設ケタ。(附一七、附一八、附一九)

六、公務傷病者ノ遺族扶助料ノ一時的加給

公務員起因死亡者及増加恩給受給者ノ遺族扶助料ハ死亡ノ時ヨリ五年間ハ十分ノ三ヲ加給スル事ニナリ(七五)改正法施行迄ニ五年ヲ經過セザル者ニハ適テ適用シ改正法施行後ノ殘期間ダケ加給スルコトニシタ。(附一四)

七、傷病年金ノ新設

傷病賜金中第一款乃至第四款ヲ傷病年金ニ改正シ、且ツ下士官以下ノミナラズ一般公務員ニモ給スルコトニナツタ。(四六ノ二、六五ノ二、附一、附七)

八、失權原因ノ改變

イ、在職中ノ職務ニ關スル犯罪ニ依リ退職後ニ至ツテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレテモ失權スルコトニナツタ。(九四ノ二)
ロ、從來ハ六年以上ノ懲役禁錮ニ處セラレルト失權シタノヲ、二年ヲ超ユル禁錮以上ニ改メタ(九)
ハ、扶助料受給者タル遺族ガ事實上婚姻關係ニ入ツタ場合ニハ恩給審査會ノ議ヲ經テ失權セシメ得ルコトニナツタ。(八〇)

九、一時恩給ノ再任返還

改正法施行後ニ一時恩給ヲ受ケタ者、再就職シテ普通恩給ヲ給セラルベキ場合ニハ前退職ヨリ再就職迄ノ期間ニ應ジ普通恩給ノ幾分ヲ減ズル、但シ一定割合ノ金額ヲ返還スレバソレデモヨイ。(六四ノ二)

一〇、普通恩給ノ年齢ニ因ル停止

増加恩給又ハ傷病年金ト併給セラル、場合ノ外普通恩給ハ三〇歳マデハ六分ノ一、四〇歳マデハ八分ノ一ダケ停止サレル。(五八ノ一、三)。此ノ規定ハ改正法施行前カラ受給ノ普通恩給及改正法施行當時在職者ノ退職後ノ普通恩給ニ適用セヌガ施行後ニ再任スルト再任改定ニ依ル増加部分ニ付テ適用スル。(附八)

一一、多額所得者ノ普通恩給ノ停止

普通恩給年額千圓以上ノ者恩給ト合シテ六千圓ヲ超過スル所得アル場合ニハ其ノ超過額ノ二割ヲ停止スル、但恩給年額ノ二割ヲ超エテ停止スルコトナク且支給年額ヲ千圓未滿ニスルコトハセヌ。(五八ノ一四)

此ノ改正ハ昭和九年四月一日カラ施行スルガ施行前ニ給與事由ヲ生ジタ恩給ニモ適用スル。(附一、附二)

一二、加算規定ノ改正新設

植民地在勤加算ノ要件タル在勤期間ヲ文官、教育職員、待遇職員ハ四年、軍人ハ一年、警察、刑務

所職員ハ三年ニ延長(九一、附一六)

一三、休職、歸休等ノ期間ノ半減計算

改正法施行後ノ休職、停職、歸休、待命等ノ期間ハ半減シタルモノヲ在職年トスル。(四〇ノ二、附五)但シ是等ガ昭和八年十月一日前カラ進行中ノ場合ハ舊ニ依ル。(附六)

一四、恩給法第八五條ニ對スル巡查退隱料ノ特例

一五、受給權調査

二年ニ一回宛恩給權ノ存否ヲ調査シ恩給ノ過誤拂ヲ防止スルコトトナツタ。(九ノ二)

一六、行政訴訟範圍ノ縮少

公務傷病ノ程度ニ關シテハ出訴出來ヌコトニナツタ。(一三ノ二、但書、附三)

一七、既得恩給ニ就テ

昭和八年九月三十日マデニ退職シテ發生シタ恩給權即所謂所得權ニ就テハ改正法ハ何等ノ變改ヲ加

フルモノデナク改正法ニ依テ恩給ノ基礎年限ヲ律シタリ恩給率ヤ基礎俸給ヲ改正法デ改メテ減額ノ爲更正シタリスル様ナ事ハ一切セヌ、但既得恩給デモ多額ノ所得ガアルト第五八條第一項第四號ノ改正規定デ停止サレル事ガアルノミデアル。(附二)

五、昭和八年勅令第二三六號恩給法施行令中改正ノ件ニ依ル改正ノ要點

本改正ハ昭和八年法律第五〇號恩給法中改正ニ伴ツテ改正シタ規定ガ大部分ヲ占メ此ノ改正ヲ機トシテ法律ノ改正ニ關係ナク設ケタ規定ノ一部分ヲ占メテキル。改正ノ要點左ノ如クデアル。

一、恩給受給權調査ノ施行方法 (一乃至ノ四ノ改正法律九ノ二)

年金タル恩給ノ受給者ハ隔年一回一定ノ時期ニテ戸籍謄本又ハ抄本等ヲ裁定廳ニ提出スベク、不提出ノ場合ハ恩給ノ支給ヲ差止メラレル。尙提出ノ際ハ受給權調査票ヲ提出スベク之ガ様式ハ改正給與細則第二五號書式ニ規定シタ。又謄本、抄本ハ提出スベキ月又ハ其ノ前月作成ノモノタルヲ要スル者改正給與規則第三四條ノ二ニ規定シタ。

例ハバ

◎教育職員ニ就テイヘバ普通恩給權者及妻タル扶助料權者ハ戸籍抄本、(妻以外ノ扶助料權者ハ戸籍謄本妻以外ノ遺族ハ先順位者ガアリ得ルカヲ抄本デハ身分關係ハ判明セヌ)ヲ昭和九、一一、一三、一五……年(奇數年)ノ隔年ニ普通恩給權者ハ其ノ年ノ一月、扶助料權者ハ同七月ニ裁定官廳ニ提出スル、而シテ此等ノ戸籍抄本及謄本ハ之ヲ提出スベキ月又ハ其ノ前月現在ニ於ケル受恩給者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノタルコトヲ要ス。
尙右ノ外ニ其ノ書類ト共ニ左記様式ノ「受給權調査票」ナルモノヲ提出スルヲ要スル。

第二十五號書式

恩給受給權調査票	
一、恩給證書記號番號	
一、受給者住所氏名	
一、受給權調査期月	昭和 年 月

備考 用紙ハ成ル可ク半紙四ツ切又ハ半折大トスルコト

以上ノ書類ヲ提出スベキ月ニ提出セヌト一期隔デ、次ノ支給期ヨリ(例ハバ七月提出セザレバ翌年

一月渡分ヨリ) 恩給ノ支給ヲ差止メルトイフコトデアル。但シ此等ノ書類ヲ提出スベキ月ガ恩給ノ裁定ヲ受ケタル月(證書ノ日附ニ在ル月)ノ翌月ヨリ一、二月内ニ在ルトキハ其ノ書類ヲ提出スルコトヲ要セヌ。

二、一時恩給及一時扶助料ノ負擔分擔開始 (四附一三)

昭和九年四月一日ヨリ實施スル分擔方法ハ恩給法第一七條ニ從フ。

◎恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スベキ恩給ハ普通恩給ト扶助料ダケデアツタノガ改正法デハ一時恩給及一時扶助料ニモ及ブコトニナツタ。但シ此等ノ部分ハ昭和九年四月一日ヨリ施行セラレル。尙コノ改正規定ニヨリ種々複雑ナ關係モアルガ受給者ニハ直接關係ハナイ。

三、在職年半減ノ原因タル不執務期間一月ノ意義ノ規定 (一九ノ二、改正法律四〇條ノ二)

◎恩給法上ノ在職年計算デハ在職一ヶ月トイフコトハ必ズシモ三〇日デナク、一日職ニアツテモ在職一ヶ月トイフコトニナルノデアルカラ結局、

某月ノ一日カラ末日迄現實執務ヲ要シナカツタ場合或ハ某月ノ一日カラ其ノ月ノ中途(一日デモヨシ)迄現實執務ヲ要セズシテ其ノ儘退職シタル場合、

右ノ所謂某月ハ在職二分ノ一月トシテ計算スルノデアル。

現實執務不要ノ期間ガ月ノ二日以降ニ初ツテキル月或ハ現實執務不要ノ期間ガ退職デ終ツタ月デモ再就職シタ月ノ様ナノハ在職一ヶ月トシテ計算スルノデアル。
例ヘバ四月三十日ニ退職ニナリ六月一日ニ退職スルト五月ト六月ダケハ何レモ在職二分ノ一月トシテ計算サレル。

四、傷病年金及傷病賜金ヲ給スベキ傷病ノ程度 (二四ノ二、三一、附一、三、改正法律四九條ノ二、六六條ノ四)

賜金ヲ年金ニ編入スル場合ノ經過的規定(附三、一)(改正法律附則七條但書)

◎主ニ軍人關係ニアル。

五、恩給外所得ノ範圍計算方法調査決定方法及申告 (二四ノ三乃至二四ノ八附一、改正法律五八條ノ一項ノ四)

範圍ハ所得税法ノ個人ノ第三種所得ト大體同範圍デ之ヲ全國ニ假ニ施行シタトセバ其ノ範圍ニ入ルヤウナ所得ヲ恩給外ノ所得トスル。計算ハ所得税法一四條ノ一、二項及同法施行規則七、八條準用調査ハ稅務署長又ハ植民地ノ稅務官署、決定ハ裁定官廳、退職ノ年ハ計算セヌ。所得決定ニ基キ其ノ年七月カラ翌年六月ニ至ル期間分ヲ停止シ從テ支給停止ハ十月以降ニナル。

◎恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ五千圓ヲ超ユルトキハ恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ノ六千圓ヲ超ユル額ノ二割ニ相當スル金額ヲ停止ス、但シ恩給ノ支給額年額千圓ヲ下ラ

シムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ(第五十八條第一項第四號ノ條文)
トアルカラ恩給年額千圓デハ恩給外ノ所得何千圓アツテモ停止額ガ生ゼヌシ普通恩給年額千圓以上
ノモノデ外ニ五千圓以上ノ所得ノモノハ極テ少ナイト思フ。

六、退職前一年内ノ俸給ノ算出方法 (二四ノ九 改正法律五九條ノ二、三)

曆月單位ノ俸給計算ノ原則デアル。

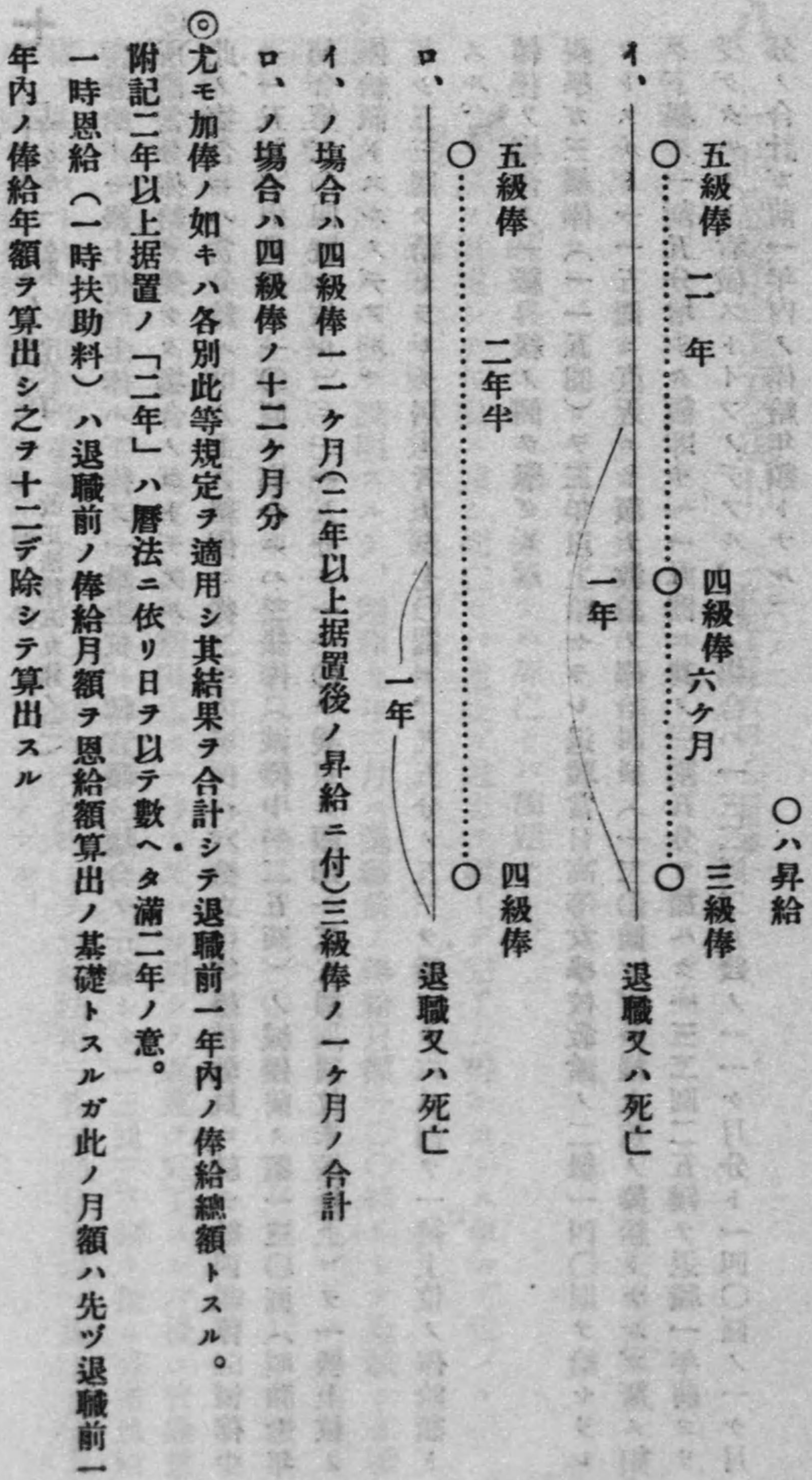
◎改正前ハ退職當時即在職最終ノ俸給額ヲ基礎トシタガ昭和八年十月一日ノ改正實施後ハ總テ退職前
一年内ノ俸給總額ニ依ルコト、ナツタ。

例ヘバ前略、昭和八年五月三日給四級俸、昭和九年七月二十日給三級俸、同日退職ノ者ノ退職前一年
内ノ俸給額ハ昭和八年八月ヨリ昭和九年六月迄一〇〇圓宛一〇〇圓、昭和九年七月一
ヶ月一五圓合計一二一五圓デアル。

退職前一年ハ退職シタ在職ノミニ就テイフノデアツテ、

例ヘバ一六年一〇ヶ月在職ノ後三ヶ月ヲ經テ再就職シ三ヶ月在職シタモノノ普通恩給ノ基礎タル退職
前一年内ノ俸給年額ハ最終在職タル三ヶ月ニ就キ其ノ俸給額ヲ月數ノ割合ニ依リ一ヶ年分ニ換算シ
テ算出スルノデアツテ前在職ノ終リノ部分ノ六ヶ月ニ週ツテ一年ト計算スルノデハナイ。

例



七、昇級一級ノ意義

(二四ノ一〇 改正法律五九條ノ二)

當分給ノ一級上位。上俸ハ下俸ノ一給上位。轉官職ノ場合ノ一級

◎所謂當分俸給ヲ受ケタ場合ノコトデアル。

此ノ場合ニハ當分給ハソノ上ノ級俸ニ從フモノデ例ヘバ公立中等學校教員ニ就テ給四級俸(減俸中一一五圓)但當分一一〇圓ノ場合ニハ三級俸(減俸中一二五圓)ノ減俸前ノ額一三〇圓(昭和七年勅令第二〇四號ニ依ル)ニ一一五分ノ一一〇ヲ乘ジタ額即一二五圓(圓位未滿繰上)ヲ一級上位ノ俸給額トスルノデアル。

若シ五三圓ヲ給セラレテ居ル者ナラ七〇圓ニ、五五分ノ五三ヲ乘ジタ六八圓ヲ一終上位ノ俸給額トスル。

轉任ノ場合ノ一級昇級ノ例ヲ舉グレバ

視學ガ三級俸(一一五圓)ヲ二年以上給セラレ退職當日高等女學校教諭ノ二級一四〇圓ヲ給セラレタトスルト一一五圓ニ直近ニ多額ヲ教諭ノ俸給四級(一二〇圓)ガ一級上位ノ俸給トナルガ斯ノ如ク下級ノ一割五分増シタ額即チ一一五圓ニ其ノ一割五分ヲ加ヘタ一三二圓二五錢ヲ退職一年前ヨリ受ケタモノト看做ストイフノデアル、此ノ場合ハ一三二圓二五錢ノ一一ヶ月分ト一四〇圓ノ一ヶ月分ノ合計ガ前一年内ノ俸給年額トナル。

八、一時恩給返還及還付

(三〇ノ二 改正法律六四ノ二但書)

再就職翌月ヨリ一年內ニ別ニ定メル命令ニ依リ完了スルヲ要ス。而シテ

イ、全部又ハ一部ヲ返還シテ普通恩給年限ニ達セズシテ退職セバ還付スル、但シ失格原因アルト

キハ還付セズ、死亡セバ還付ス。

ロ、全部ヲ返還シテ年限ニ達シ退職又ハ死亡セバ問題ナシ。

ハ、一部ヲ返還シテ年限ニ達シ死亡セバ遺族ガ遺志ヲ繼イデ完了シ得ルコトニ命令デ定メル。

ニ、一部ヲ返還シ年限ニ達シ退職セバ還付セズ。

◎例次ノ表ニ於ケル一例ヲ説明スルト、昭和九年三月ニ退職前ノ俸給月額一〇〇圓ニシテ退職シ在職五年ニ對スル一時恩給五〇〇圓ヲ受ケタ者同年九月ニ退職ノ月ノ翌四月ヨリ六ヶ月ニシテ再就職シタトセバ此ノ月數ト在職五年ヲ一年ニ付二ヶ月ノ割デ換算シタ一〇ヶ月トノ差月數四ヶ月ニ退職前ノ俸給月額ノ二分ノ一即五〇圓ヲ乘ジタ二〇〇圓ヲ再就職ノ月ノ翌月十月カラ一年內即昭和十年九月末日迄ノ大藏省令ノ定ムル適宜ノ納付期限迄ニ一時ニ又ハ分割シテ返還ヲ完了スレバ後ニ普通恩給權ヲ生ジタトキ控除サレズ、若シ返還セネバ二〇〇圓ヲ十五分シタ一三圓三三錢ヲ後ニ普通恩給權ヲ生ジタトキ普通恩給年額例、ヘバ六〇〇圓カラ控除シテ恩給法第三條デ圓位未滿ヲ繰上ゲタ五八七圓ヲ普通恩給年額トシテ給セラレルトイフコトデアル。

(一時恩給算出基礎俸給月額一〇〇ト假定シ)

一時恩給基礎在職年	換算月數	換算月數ト退職ヨリ再就職迄ノ月數トノ差月數	返還總額	控除年額
半年後再就職ノ場合	五	四	二〇〇	一三、三三
一年後再就職ノ場合	一〇	一四	七〇〇	四六、六六
一年末(一八ヶ月)後再就職ノ場合	一五	二四	一二〇〇	八〇
就職ノ場合	五	〇	〇	〇
一年後再就職ノ場合	一〇	八	四〇〇	二六、六六
一年末(一八ヶ月)後再就職ノ場合	一五	一八	九〇〇	六〇
就職ノ場合	五	〇	〇	〇
一年後再就職ノ場合	一〇	二	一〇〇	六、六六
一年末(一八ヶ月)後再就職ノ場合	一五	一二	六〇〇	四〇

但シコレハ昭和八年十月一日以後ノ退職ニ因リ權利ノ生ジタ一時恩給ニ就テノ適用ガアリ同年九月三十日以前ノ退職ニ因リ權利ノ生ジタ一時恩給ニハ適用ガナイ。十月一日以後ニ一時恩給ノ請求ヲシ又ハ支給ヲ受ケテモ其ノ一時恩給權ガ同日以前ノ退職ニ因リ生ジタモノナラバ本條ノ適用ハナイ。

九、恩給納金ノ新徴又ハ増率ノ原因タル昇給及増額ノ意義ニ付注意ス

ベキ點ノ規定

(附四 改正法律五九條)

◎從來一〇〇分ノ一ノ恩給納金ヲ納メタ公務員ハ一〇〇分ノ二ニ増率セラレ恩給納金ノナカツタ公務員ハ新ニ一〇〇分ノ一ヲ納メネバナラヌ、但シコレノ規定ハ昭和九年四月一日ヨリ施行サレル、然シ四月一日以前カラノ在職者ニ就テハ全部一齊ニ適用スルノデハナイ。
 即チ改正法施行前カラ在職シテ居ル公務員ガ四月一日以後ニ退職シ退職ノ即日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シタ場合(事實上ノ轉任ノ場合)ハ就職ノ月ハ從來ノ通り一〇〇分ノ一ノ納金又ハ無納金、其ノ翌月カラ一〇〇分ノ二又ハ一〇〇分ノ一ノ納金トナリ全然新就職ノ場合ヤ事實上ノ轉任ト觀ラレナイ場合(改正法施行前ヨリノ在職者デモ退職ノ翌々日以後ニ就職シタ場合)ニハ就職ノ月カラ直ニ一〇〇分ノ二又ハ一〇〇分ノ一ノ納金ヲスルコトニナル。尙施行前カラ引續キ勤續セル者ニ就テハ昇給、増額ノ翌月カラ適用セラレベク何等ノ問題ハナイ。

附記

- (1) 引續キ勤續セルモノデ本俸ニハ變リナイ者デモ四月一日以後ニ於テ加俸ガツケバ本俸及加俸ノ兩方ニ付規定ノ納金セネバナラヌ。
- (2) 昭和九年三月三十一日附發令ノ者ニハ適用ハナイ。

計算方法ニ就テ

(3) 納金ニ就テハ俸給ノ支拂ヲ受ケル際其ノ支拂官又ハ支拂吏員ヨリ控除サレル。

一一〇

六、恩給金額ノ計算方法ニ就テ

最モ一般的ナ場合ノ二、三ノ例ヲ擧ゲテ簡單ニ説明シテ見マス。

A
 大正八年三月就職
 昭和三年十月退職
 九年八月
 昭和三年十二月就職
 昭和十一年三月退職
 七年四月

計 十七年
 B
 大正八年三月就職
 昭和十一年三月退職
 十七年一月

右ノ場合ハ共ニ在職十七年以上十八年未滿デアルカラ俸給年額(退職前一年内ノ)百五十分ノ五十分ナル。

A
 大正五年三月就職
 大正八年二月退職
 三年
 大正八年八月就職
 昭和四年七月退職
 十年
 昭和五年三月就職
 昭和十二年二月退職
 七年

計 二十年
 B
 大正五年三月就職
 大正六年二月退職
 一年
 大正八年一月就職
 昭和十二年十二月退職
 十九年

計 二十年
 C
 大正二年三月就職
 昭和八年二月退職
 二十年

Aノ場合ハ十七年以上ノ勤続在職年ハナイカラ(法第六二條第三項)

計算方法ニ就テ

一一一

$$\text{俸給} \times \left(\frac{50}{150} + \frac{1}{150} \times 3 \right) = \text{俸給} \times \frac{53}{150}$$

(十七年分)(三年分)

デアリ、Bノ場合ハ後ノ就職ノ部分ニ十九年ヲ含ムカラ、

$$\text{俸給} \times \left(\frac{50}{150} + \frac{1}{150} + \frac{1}{150} \times 2 \times 2 \right) = \text{俸給} \times \frac{55}{150}$$

(十七年分)(在職一年分)(勤続在職二年分)

デアリ、Cノ場合ハ在職二十年ガ全部勤続在職年デアルカラ、

$$\text{俸給} \times \left(\frac{50}{150} + \frac{1}{150} \times 2 \times 3 \right) = \text{俸給} \times \frac{56}{150}$$

(十七年分)(勤続在職三年分)

デアル、以上ハ小學校教員ノ場合デアアルガ若シ中學校(法第六十二條第項)教員ニハ、

A 大正二年一月 中學校教員 (二十五年)

昭和十二年十二月

B 大正二年一月 小學校教員 (六年)

大正七年十二月

昭和十二年十二月 中學校教員 (十九年)

Aノ場合ハ

$$\text{俸給} \times \left\{ \frac{50}{150} + \left(\frac{1}{150} + \frac{1}{300} \right) \times 8 \right\} = \text{俸給} \times \frac{62}{150}$$

(十七年分)(勤続八年分)

Bノ場合ハ

$$\text{俸給} \times \left\{ \frac{6}{150} + \frac{50}{150} + \left(\frac{1}{150} + \frac{1}{300} \right) \times 2 \right\} = \text{俸給} \times \frac{59}{150}$$

(小在六年分)(中在十七年分)(中勤二年分)

トナル。

而シテ小學校教員ノ在職年數ノ内ニハ實業補習學校、幼稚園等ノ在職年ヲ中學校教員ノ在職年數中ニハ師範學校、高等女學校、實業學校等ノ在職年數ヲ包含シ各々ノ相互轉任ハ勤続ト看做スノデア
ル、尙扶助料ノ年額ハ普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額デアアル(法第七十條第三項)

七、法第九十九條ノ削除ニ就テ

[舊法第九十九條、第五十八條ノ規定ハ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官ニ付テハ當

九十九條ノ削除ニ就テ

ノ内之ヲ適用セス其ノ退隱料又ハ恩給ノ停止ハ仍從前ノ例ニ依ル但シ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官學習院ノ職員ト爲リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ノ施行ノセラル、期間内ニ屬スル教育職員ノ在職年ト教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官以外ノ公務員ノ在職年トハ互ニ之ヲ通算セス仍從前ノ例ニ依ル教育職員ノ在職年ト第四十二條第一項各號ニ掲クル在職年トノ間ニ付亦同シ但シ學習院ノ職員トシテノ在職年ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ノ施行セララル、期間内ニ文官ヨリ教育職員又ハ教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官ニ轉任シタル者失格原因ナクシテ退職シ年金タル恩給ヲ受ケサル場合ニ於テハ文官ノ在職年數ニ應シ之ニ一時恩給ヲ給ス

教育職員ヨリ文官ニ轉シタル者教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官以外ノ文官トシテ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官トシテノ在職最終ノ俸給額ニ基キ之ニ恩給ヲ給ス

本條ハ各公務員ノ在職年ヲ一樣ニ通算シ再任ノ場合ニハ全額停止スルノ原則ヲ採ツタ際ノ唯一ノ例外規定トシテ教育職員在職年ハ教育文官等特殊ノ者ヲ除キ他種公務員トノ通算ヲ認メヌコトニシ停止關係其ノ他モ從前通りニスルコトニシタノデアツダガ教育職員ニ對シテノミ恩給法ノ原則ヲ適用セヌトイフコトハヨロシクナイトイフノデ今回ノ改正法律デ削除スルコトニナツタノデアラル

併シ乍ラ本條削除ノ際ニ現ニ本條ノ特殊關係デ律セラレテキル在職者ニ付テハ其ノ在職ヲ終ル迄ハ本條ハ猶其ノ範圍デ適用サレル從テ改正法施行前ニ給與事由ノ生ジタ恩給ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルノデアラル尙コレ等ノ種々ノ經過の規定ハ法律第五〇號附則第一七條乃至第一九條ニ設ケラレテアル

○參考

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

(明治廿三年十月二日 法律第十九號)

第一條 市町村立小學校ノ正教員ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス
第二條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一二當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス

一、年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ

二、傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三、廢職廢教ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第三條 左ノ事項ノ一二當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加退隱料ヲ給ス

一、職務ニ依リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

二、職務ニヨリ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職シタルトキ

第四條 退隱料ノ年額ハ退職現時ノ俸給ト在職年數トニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ定ム但シ在職四十年以上ノ者ニ給スヘキ退隱料ハ四十年ノ額トス

前項ニヨリ退隱料年額ヲ定ムルハ十五年以上官公立小學校ニ勤績シタル者ニ退隱料ヲ支給スル場合ニ限ル其他ノ場合ニ於テハ官吏恩給法第五條ヲ準用ス

兼職ニ依リテ受クル加俸ハ退隱料年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ

第四條ノ二 退隱料ヲ受クル者公立小學校職員公立圖書館職員小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル公立幼稚園ノ保姆在外指定學校職員又ハ教育事務ニ從事スル文官ト爲リタル後滿一年以上ニシテ退職又ハ退官シタルトキハ前後ノ在職在官年數ヲ通算シ後職又ハ後官ニ對スル退隱料ト前ノ退隱料トヲ比較シ其ノ額多キ方ヲ給ス

前項ノ場合ニ於テ本法ニ依ル退隱料額カ府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法明治廿九年法律第十三號又ハ在外指定學校職員退隱及遺族扶助料法ニ依ル退隱料ニ比較シ多キトキハ其ノ退隱料ハ本法ニ依リ之ヲ支給スルモノトス

第四條ノ三 官吏恩給法第六條、第十條、第十二條第一項及第十三條第二項ハ退隱料ニ之ヲ準用ス退隱料等ノ支給上在職年數ノ算定ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ定ム

(參照)

官立恩給法

第六條 恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷痍、疾病引續キ重症ニ趨キタルトキハ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出レハ査覈ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一、一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二箇年

二、一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ亡シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後三箇年

後三箇年

第十條 文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス

第十二條 恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス

剝奪ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス

一、判任官以上ノ官ニ任ジ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス

二、公權ヲ停止セラレタルトキ

第十三條 年齢未ダ六拾歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

法令ヲ以テ設定シタル議會ノ議員並市町村長助役收入役名譽職參事會員東京市京都市大阪市北海道ノ區長沖繩縣區制ニ於ケル區長及居留民國ノ區長助役會計役ト爲リタルノ故ヲ以テ退職シタルモノハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失ハス

第五條 退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其ノ間退隱料ノ支給ヲ停止ス但シ第一號ノ場合ニ於テハ其ノ差額ニ限り支給ヲ停止ス

一、退隱料ノ支給ニ付在官職年數ヲ通算スルコトヲ得ル官職ニ就キ受クル給料ト退隱料トヲ合シタル金額退職現時ノ給料額ヲ超過スルトキ

二、五箇年以上受領ヲ怠リタルトキ

三、公權ヲ停止セラレタルトキ

第六條 年齢未ダ六拾歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第七條 市町村立小學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷痍ヲ受ク若クハ疾病ニ罹リ第三條ニ該當スルモノニ限リ退職現時ノ給料四分ノ一ノ退隱料ヲ終身給與ス

第八條 在職滿一年以上ニシテ退職シタル市町村立小學校正教員ニハ退職現時ノ給料半ク年分ヲ以テ

在職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金員ヲ一時給與ス但休職滿期ニヨリ退職シタル者ハ其本職最終ノ給料額ニ依リ之ヲ給與ス

最終ノ給料額ニ依リ之ヲ給與ス

最終ノ給料額ニ依リ之ヲ給與ス

最終ノ給料額ニ依リ之ヲ給與ス

最終ノ給料額ニ依リ之ヲ給與ス

最終ノ給料額ニ依リ之ヲ給與ス

最終ノ給料額ニ依リ之ヲ給與ス

市町村立小學校正教員ニシテ教育事務ニ從事スル文官又ハ他ノ待遇文官ニ轉任シタル者退官又ハ退職シタルトキハ小學校教員ノ在職年數ニ應シ前項ノ給與金ヲ給ス

第二條若ハ第三條ニ依リ退職料ヲ受クル者他ノ法律ニ依リ退職料若ハ恩給ヲ受クル者自己ノ便宜ニ依リ退職退官シタル者又ハ免職ニ處セラレ懲戒處分若ハ刑事裁判ニ依リ免官セラレ若ハ失職ニ該當シタル者ハ前二項ノ限ニ在ラス

本條ノ退職給與金ヲ受ケタル者市町村立小學校正教員ニ再任シ爾後退職シタルトキハ第一項ノ在職年數ハ再任ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第九條 退職料ノ支給及第八條ノ給與ハ府縣知事之ヲ裁定ス

官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退職料ニ適用ス

(參 照)

官 吏 恩 給 法

「第十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後七個年內ニ請求セザレバ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十八條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス」

第十條 市町村立小學校正教員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

- 一、在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ
 - 二、在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ
 - 三、退職料ヲ受クルモノ死去シタルトキ
- 第十一條 官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戶籍內ニ在ル二十歳未滿又ハ癩疾若シクハ不具ニシテ産業ヲ營ム能ハサル兄弟姉妹アリテ之給養スル者ナキ場合ニ適用ス

(參 照)

官 吏 遺 族 扶 助 法

「第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受クヘキ恩給年額三分ノ一トス

公務ノ爲メ受ケタル傷痍ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞働及困苦ヲ忍ヒ勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ二トス

扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第五條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受タル寡婦死去シ若クハ權利消滅シタルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

第六條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ戸主ニ非サル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモ

第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫退官後結婚シタル者ハ扶助料ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル

第九條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第十條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸籍ヲ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルトキハ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得

第十一條 其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第十二條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ廢疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキ

ハ寡婦ニ相當スル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラス一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第十三條 扶助料ハ賣買讓與買入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十四條 扶助料ヲ受クルノ權利バ左ノ時ヨリ消滅ス
一、寡婦死去又ハ婚嫁シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
二、孤兒死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齢二十歳ニ滿チタル月ノ翌月
三、父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ廢疾不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナキトキハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其孤兒ニ各終身給スルコトヲ得但戸籍内ニ寡婦ト同額ノ扶助料ヲ受クル者アルトキハ其間之ヲ給セス

第十六條 扶助料ヲ受クル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ扶助料ノ支給ヲ廢ス公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス

第十七條 扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第十二條 在職十五年未滿ノ市町村立小學校正教員在職中職務ノ故ニアラズシテ死去シタルトキハ其

遺族ニ一時扶助金ヲ給ス
 前項ノ扶助金ハ退職給與拾ノ額ト同額トス
 第十三條 扶助料及扶助金ノ支給並第十一條第二項ノ給與ハ市町村長ノ申牒ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス

第十四條 府縣ハ小學校教員恩給基金ヲ備フヘキモノトス

市町村ハ其市町村立小學校ニ在職スル正教員ノ給料額百分ノ一二當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス

兼職ニ係ル加俸ニ對シテハ本條ノ納金ヲ要セス

本條第二項ノ納金ハ府縣小學校教員恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其利子ヲ以テ退職料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得サルモノトス

本條第二項ニ依リ各府縣ニ於テ收入シタル納金額二分ノ一二當ル金員ヲ收入年度ノ翌々年度毎ニ國庫ヨリ府縣ニ給與スルモノトス

退職料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ハ恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘキモノトス

恩給基金ノ管理並退職料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル規則ハ文部大臣之

ヲ定ム

恩給基金ノ管理並退職料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル費用ハ總テ府縣ノ負擔トス

第十五條 此法律中第一條乃至第十三條ハ明治廿六年ヨリ第十四條ハ明治廿五年度ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條項ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行前退職料受ケタル者ニシテ本法施行後再市町村立小學校教員ト爲リ在職三年以上ニ至ラズシテ退職シタル者ニハ仍從前ノ規定ヲ準用ス

(明治四十年五月法律第四十七號)

昭和九年四月十日印刷

昭和九年四月十五日發行

定價四拾錢

(送料四錢)

編輯者兼
發行者 社團 岩手縣教育會

右代表者 盛岡市久保田第二地刻外加賀野小路七八
鈴木重男

印刷者 盛岡市内九十番戶
山口德治郎

印刷所 盛岡市内九十番戶
山口活版所

發行所 岩手縣教育會

岩手縣廳內
振替口座東京二〇五九二番

